

**ICOM**

取扱説明書

COMMUNICATIONS RECEIVER  
**IC-R10**

Icom Inc.



# 目次

<b>7. メモリーモードの使いかた</b> .....	<b>23</b>	<b>9. セットモードについて</b> .....	<b>55</b>
7-1 メモリーモードと メモリーバンクの切り替えかた .....	23	9-1 セットモードの設定方法 .....	55
7-2 メモリーチャンネルの呼び出しかた .....	24	9-2 セットモードの項目別詳細 .....	56
7-3 メモリーの書き込みかた .....	25	①オープニングメッセージの設定/②ビープ音の設定/ ③ディスプレイ用コントラストの設定/④ディスプレイ /キーボード用バックライトの設定/⑤プログラムスキ ップ機能の設定/⑥メモリースキップ機能の設定/⑦パ ワーセーブの設定/⑧スキャンディレイの設定/⑨ガイ ド表示の言語設定/⑩CI-Vのアドレス設定/⑪CI-Vの ボーレート設定/⑫CI-Vのトランシーブ設定	
<b>A</b> VFOモードでメモリー先を探して書き込む .....	25	<b>10. その他の便利な機能</b> .....	<b>59</b>
<b>B</b> メモリーモードでメモリー先を探して書き込む .....	26	10-1 AFC(自動周波数制御)機能の使いかた .....	59
7-4 メモリーコピーのしかた .....	27	10-2 ATT(アッテネーター)機能の使いかた .....	59
7-5 メモリーチャンネルの編集 .....	28	10-3 NB(ノイズブランカー)と ANL(自動雑音制限)機能の使いかた .....	60
7-6 検索機能の使いかた .....	32	10-4 ロック機能の使いかた .....	60
<b>8. スキャンによる自動選局のしかた</b> .....	<b>33</b>	10-5 減電圧表示機能について .....	60
8-1 スキャンについて .....	33	10-6 スリープタイマーの使いかた .....	61
8-2 自動選局をする前に .....	34	10-7 工場出荷時の状態に戻す(リセット)には .....	62
8-3 フルスキャンによる自動選局のしかた .....	35	<b>11. 別売品について</b> .....	<b>63</b>
8-4 プログラムスキャンによる自動選局のしかた .....	36	11-1 別売品一覧表 .....	63
8-5 オートメモリーライトスキャンによる 自動選局のしかた .....	38	11-2 CI-V(リモート)ジャックについて .....	63
8-6 メモリースキャンによる自動選局のしかた .....	40	<b>12. ご参考に</b> .....	<b>65</b>
8-7 バンクスキャンによる自動選局のしかた .....	41	12-1 故障かな?と思ったら .....	65
8-8 モードセレクトスキャンによる 自動選局のしかた .....	43	12-2 故障のときは .....	66
8-9 プライオリティワッチ機能について .....	45	12-3 定 格 .....	67
8-10 スキップ機能について .....	47		
<b>A</b> スキップ機能の種類と動作について .....	47		
<b>B</b> スキップ周波数の登録方法 .....	48		
8-11 シグナビ機能について .....	49		
8-12 プログラムチャンネルの編集 .....	50		

# 1 安全上のご注意

安全にお使いいただくために、  
必ずお読みください。

- ここに示した注意事項は、使用者および周囲の人への危害や財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全に正しくお使いいただくために、守っていただきたい事項を示しています。
- お読みになったあとは、大切に保管してください。

## ■受信機本体について



**警告**

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

- DC電源コードを接続するときは、プラス⊕とマイナス⊖の極性をまちがえないように十分注意してください。  
火災、感電、故障の原因になります。
- 指定以外のDC安定化電源は使用しないでください。  
火災、感電、故障の原因になります。
- DC4.5～16V以外の電圧は使用しないでください。  
火災、感電、故障の原因になります。
- 大きな音量でヘッドホンやイヤホンなど使用しないでください。  
大きな音を連続して聞くと、耳に障害を与える原因になります。
- 製品の中に線材のような金属物や水を入れしないでください。  
火災、感電、故障の原因になります。



**警告**

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

- この製品は完全調整していますので、分解、改造しないでください。  
火災、感電、故障の原因になります。
- 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用しないでください。  
そのまま使用すると、火災、感電、故障の原因になります。  
すぐに電源スイッチを切って受信機から電池を取り除き、煙が出なくなるのを確認してからお買い上げの販売店、または弊社営業所サービス係に連絡してください。



**注意**

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害だけの発生が想定される内容」を示しています。

- 直射日光のあたる場所やヒーター、クーラーの吹き出し口など、温度変化の激しい場所に放置しないでください。  
変形、変色、火災、故障の原因になることがあります。
- テレビやラジオのすぐ近くで使用すると、雑音が発生することがあります。
- 製品を落としたり、強い衝撃を与える場所に保管しないでください。  
けが、故障の原因になることがあります。
- 製品の上に乗ったり、物を置いて保管しないでください。  
落ちたり、倒れたりして、けが、故障の原因になることがあります。

## ■ニカド電池について

### 危険

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。

- 専用充電器BC-74J以外で充電しないでください。  
電池の破裂、発熱、液もれの原因になります。
- ニカド電池は下記のことを必ず守らないと、電池の破裂、発熱、液もれの原因になります。
  - 火の中に投入したり、加熱しない
  - ハンダ付けしない
  - プラス⊕とマイナス⊖を針金などの金属類で接続しない
- 電池の液が目に入ったときは、こすらないでください。  
失明のおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗ったあと、ただちに医師の治療を受けてください。

### 警告

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

- 電池を水や海水につけたり、ぬらさないでください。  
電池の発熱、サビの原因になります。
- 分解、改造しないでください。  
電池の破裂、発熱、液もれの原因になります。
- 電池の液が皮膚や衣服に付着したときは、放置しないでください。  
皮膚に障害を与えるおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。

### 注意

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害だけの発生が想定される内容」を示しています。

- 0～+40℃の範囲以外では充電しないでください。  
この温度範囲以外では電池の液もれ、発熱の原因になることがあります。
- 指定時間以上充電しないでください。  
電池の破裂、発熱、液もれの原因になることがあります。
- 高温の場所で使用、放置しないでください。  
電池の液もれ、性能や寿命を低下させる原因になることがあります。
- 寒い戸外や冷えたままで充電しないでください。  
電池の液もれ、性能や寿命を低下させる原因になることがあります。
- ニカド電池を使用の際に異常と思われるときは、使用しないで買い上げの販売店、または弊社営業所サービス係に連絡してください。  
そのまま使用すると、電池の液もれ、発熱、爆発の原因になることがあります。
- 強い衝撃を与えたり、投げ付けたりしないでください。  
電池の破裂、発熱、液もれの原因になることがあります。
- 受信機を使用しないときは、必ず電源スイッチを切ってください。  
液もれの原因になることがあります。
- 受信機を長期間使用しない場合はニカド電池を取り出し、-30～+35℃で湿気の少ない場所に保管してください。  
電池の液もれ、性能や寿命を低下させる原因になることがあります。

# 1 安全上のご注意

## ■充電器について



**危険**

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。

- IC-R10用単三形ニカド電池専用の充電器です。指定以外の充電には使用しないでください。電池の破裂、発熱、液もれの原因になります。
- ニカド電池のプラス⊕とマイナス⊖の極性をまちがえないように十分注意してください。電池の破裂、発熱、液もれの原因になります。
- 必ず表示された電源を使用してください。他の電源で使用すると、火災、発熱、感電、故障の原因になります。
- この製品を分解、改造しないでください。



**警告**

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

- 充電器をぬらしたり、水を入れたりしないでください。また、水にぬれたときは、使用しないでください。火災、発熱、感電、故障の原因になります。
- DC電源コードや接続ケーブルの上に重いものを載せたり、挟んだりしないでください。傷ついて破損し、火災、感電、故障の原因になります。



**警告**

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

- DC電源コードや接続ケーブルを無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱や加工しないでください。傷ついて破損し、火災、感電、故障の原因になります。
- 充電器の充電端子接点部に金属類を差し込まないでください。火災、発熱、感電、故障の原因になります。
- 赤ちゃんや小さなお子さまの手が届かない場所で使用、保管してください。感電、けがの原因になります。
- ぬれた手で電源プラグや機器に絶対触れないでください。感電の原因になります。
- 万一、煙が出ている、変なおいや音がするなどの異常状態のまま使用しないでください。そのまま使用すると、火災、感電、故障の原因になります。すぐにACコンセントから充電器を抜き、煙が出なくなるのを確認してからお買い上げの販売店、または弊社営業所サービス係に連絡してください。
- DC電源コードや接続ケーブルが傷ついたり、ACコンセントの差し込みがゆるいときは使用しないでください。火災、感電、故障の原因になりますので、お買い上げの販売店、または弊社営業所サービス係に連絡してください。



## 注意

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害だけの発生が想定される内容」を示しています。

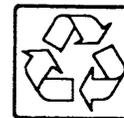
- 0～+40℃の範囲以外では充電しないでください。  
この温度範囲以外では電池の液もれ、発熱の原因になることがあります。
- 湿気やホコリの多い場所、風通しの悪い場所に置かないでください。  
火災、発熱、感電、故障の原因になることがあります。
- 直射日光のあたる場所やヒーター、クーラーの吹き出し口など、温度変化の激しい場所には設置しないでください。  
充電器の火災、故障、変形、変色、または電池の破裂、発熱、液もれの原因になることがあります。
- 受信機に充電器を抜き差しするときは、DC電源コードを引っ張らないでください。  
火災、感電、故障の原因になることがありますので、電源プラグを持って抜いてください。
- 充電後や充電しないときは、ACコンセントから充電器を抜いてください。

## その他取り扱い上のご注意

- 電波法第58条で「特定の相手方に対して行なわれる無線通信を傍受してその存在若しくは内容を漏らし、又はこれを窃用してはならない」と通信の秘密に関して定められています。IC-R10を取り扱うときは十分配慮するようにご注意ください。
- IC-R10をお買い上げいただいたときや、2ヵ月以上使用しなかったときは、必ず充電してください。

## その他取り扱い上のご注意

- IC-R10は広帯域受信機ですから、受信機の内部発振(スプリアス)により、受信できなかつたり、雑音を発生する周波数もありますが、故障ではありません。
- IC-R10を極端に寒い場所から持ち運んだ場合は、結露する可能性があります。  
結露した場合は、水分をふき取ってからご使用ください。
- ニカド電池が満充電されたあとも、引き続き充電したり、短時間運用後の再充電の繰り返しはさけてください。
- アンテナを持って、製品を持ち運ばないでください。  
けが、故障の原因になることがあります。
- 極端に高温になる場所、湿度の多い場所、ホコリの多い場所などでの使用はさけてください。
- 清掃するときは、シンナーやベンジンを絶対使用しないでください。  
ケースが変質したり、塗料がはげる原因になることがあります。普段はやわらかい布で、汚れのひどいときは水で薄めた中性洗剤を少し含ませてふいてください。
- 内部のコアやトリマーを触らないでください。  
完全調整していますので、取扱説明書で指定していない場所を触ると故障の原因になります。
- 乾電池で使用するときは、外部電源を接続しないでください。  
発熱したり液もれのおそれがあり、故障の原因になります。



Ni-Cd

### ニカド電池のリサイクルにご協力を

ご使用済みのニカド電池は、貴重な資源です。再利用しますので廃棄しないでリサイクルにご協力をお願いします。

# 2 ご使用の前に

## 2-1 電池のセット

### ■付属の電池について

付属している電池は、充電式単三形ニカド電池です。

充電のしかたは、7ページをご覧ください。

### ■乾電池のご使用について

乾電池を使用するときは、なるべく高容量のアルカリ電池をご使用ください。

乾電池は、気温が低下するほど容量の減少が著しくなります。通常、乾電池の使用可能な温度の下限は、 $-10^{\circ}\text{C}$ とされているので、寒冷地で使用する場合は電池部分を暖かくして(十分保温する)ご使用ください。

### ■電池の充電と交換時期について

電池の容量が低下すると、減電圧表示機能(☞P60)でお知らせします。

それでも、使用し続けると、ディスプレイ全体が点滅したり、表示が全体的にうすくなってきました。このようなときは、ニカド電池使用時は充電、乾電池使用時はすべて同じ種類の新しい電池と交換してください。

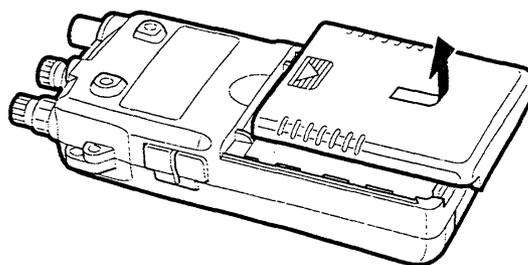
#### ●電池時間の目安(FMモード連続受信時)

付属ニカド電池：約4時間

アルカリ電池：約8時間

### 1.電池カバーを開ける

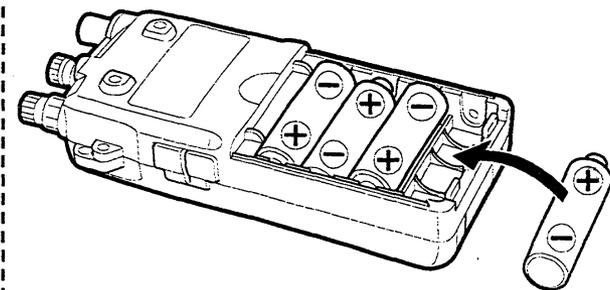
①電池カバーを押しながらスライドし、電池カバーを開けます。



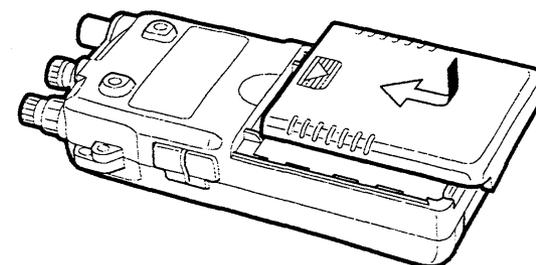
### 2.電池をセットして電池カバーを閉める

②単三形ニカド電池を4本収容できます。

- 電池の極性 $\oplus$ (プラス)、 $\ominus$ (マイナス)をまちがえないようにセットしてください。
- アルカリまたはマンガン電池を使用するときは、7ページを参照してCHARGEスイッチを“OFF”にしてください。



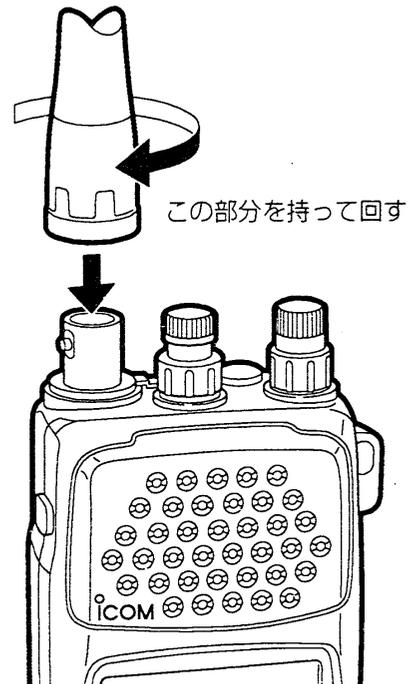
③電池カバーを元どおりに閉めます。



## 2-2 付属品の取り付けかた

### 1. アンテナを取り付ける

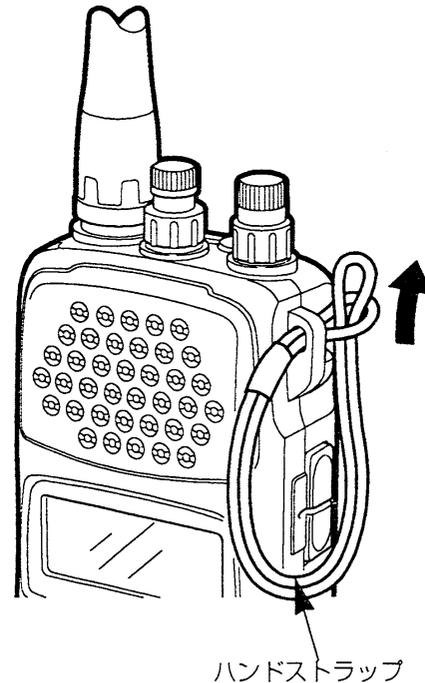
①アンテナはBNC型になっています。



※付属のアンテナでも十分に受信感度を得られますが、低い周波数帯や使用する場所により受信しにくい場合があります。第一電波工業(株)のRH795、RH799などの市販アンテナを使用すると、受信性能がさらによくなる場合がありますので、販売店にご相談ください。

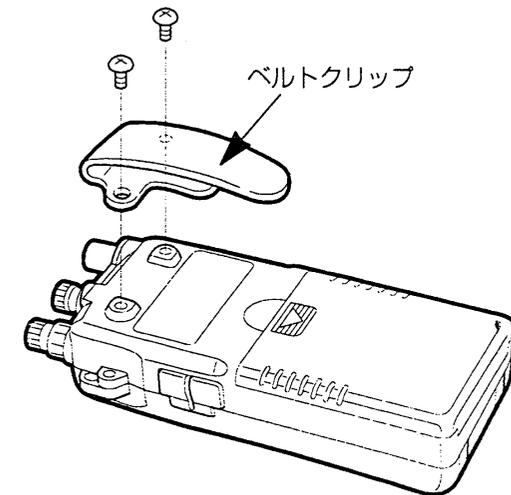
### 2. ハンドストラップを取り付ける

②運用時や持ち歩くときに、ハンドストラップを手首にとおしておくこと、落としたりしないので安全です。



### 3. ベルトクリップを取り付ける

③ベルトクリップ取り付け部に付いているネジをはずし、そのネジでベルトクリップを取り付けてください。



※取り付けネジを失って、他のネジを流用する場合、4mm以上の長いネジは絶対に使用しないでください。

## 2 ご使用の前に

### 2-3 充電のしかたと外部電源について

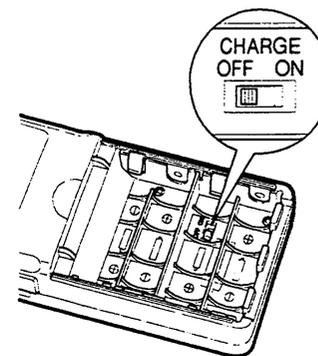
付属品のBC-74Jを接続すると、約15時間で充電します。

#### ■取り扱い上のご注意

- 充電または外部電源は、必ず指定の製品をお使いください。
- 周囲温度が0℃以下または40℃以上になる場所では、充電しないでください。
- IC-R10またはニカド電池をお買い上げいただいたとき、および長期間使用しなかったときは、必ず充電してください。
- マンガン電池やアルカリ電池は充電しないでください。充電すると液もれ、破損のおそれがあります。乾電池を使用するときは、必ずCHARGEスイッチを“OFF”にしてください。
- ニカド電池が満充電になったのち、引き続き充電したり、短時間運用後の再充電は、みかけ上電池の容量が低下した状態となります。このときは、完全に放電（通常の運用で）したあと、再充電してください。
- 充電器およびニカド電池の端子をショートや分解しないでください。感電のおそれがあります。また、火や水のなかに入れてください。爆発のおそれがあります。
- ニカド電池を持ち運んだり、保管するときは、他の金属物に触れないようにご注意ください。ショートすると危険です。
- 充電しないときは、充電器を電源からはずしてください。
- ニカド電池は、通常300回程度の充電が可能です。運用時間が極端に短くなったときは寿命ですから、新しいニカド電池をご購入ください。
- 電池を交換するときは、新しい電池と使用済みの電池、他の種類の電池を混ぜて使用しないでください。

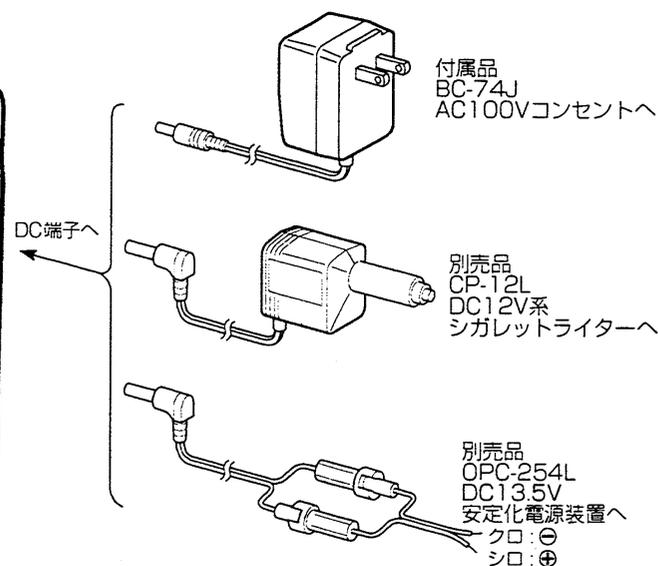
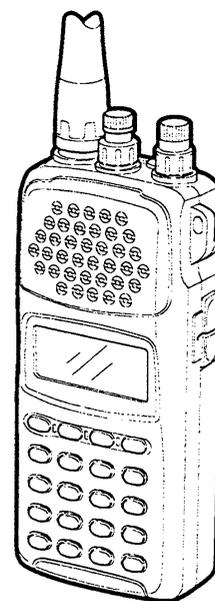
#### 1. CHARGEスイッチを設定する

- ① 充電器として使用するときには、電池カバー内のCHARGEスイッチを“ON”にします。
- ② 外部電源として使用するときには、電池を抜いてください。CHARGEスイッチはどの位置でもかまいませんが、万一のために“OFF”にしておくことをおすすめします。



#### 2. 充電または外部電源を使用する

- 充電時間の目安：約15時間（電源“OFF”時）



## 3-1 操作パネル

## ●VOL(音量)ツマミ

音量を調整するツマミです。(P11)

## ●アンテナ

付属品のアンテナを接続するBNC型コネクターがあります。BNCコネクターを使用すれば、外部アンテナも接続できます。(P6)

## ●SQL(スケルチ)ツマミ

FM/WFM/AMモードは無信号時の雑音を消すスケルチ(P12)、他の受信モードは受信感度を調整するRFゲイン(P12)として動作します。

## ●FUNC(ファンクション)キー

各キーに割り当てている機能を切り替えるキーです。キーを押している間だけ表示が点灯します。

## ●スピーカー部

直径36mmの大口径スピーカーを内蔵しています。

## ●SP(外部スピーカー)ジャック

別売品のイヤホンまたはヘッドホンを接続するジャックです。(P63)

## ●DIAL(ダイヤル)ツマミ

周波数やメモリーチャンネルの選択などに使用するツマミです。

## ●CI-V(外部制御)ジャック

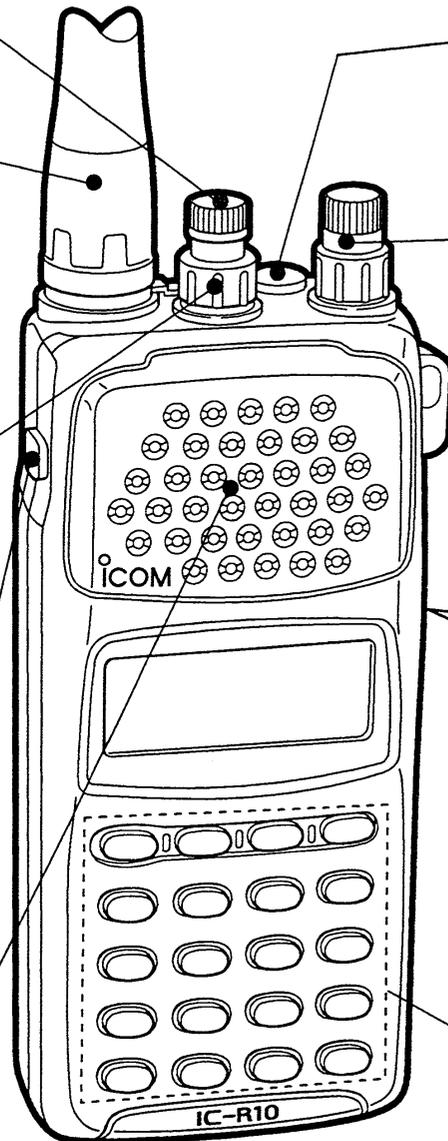
別売品のCT-17を接続するジャックです。(P63)

## ●DC(外部電源)ジャック

付属品のBC-74 Jまたは外部電源(DC4.8~16V)を接続するジャックです。(P7)

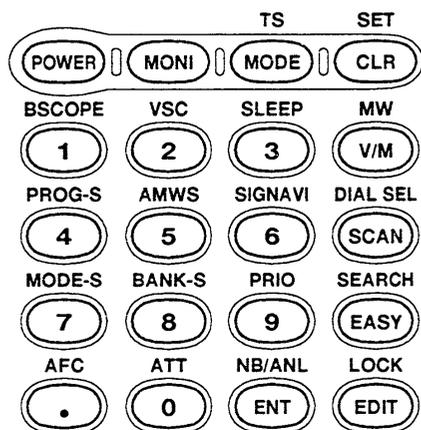
## ●キーボード部

(P9)



### 3 各部の名称と機能

#### 3-2 キーボード部



#### ■キーボードの取り扱いかた

- ①キーを単独で押したときは、キーボタン上に表示した機能になります。
- ② **FUNC** を押しながら (■表示が点灯)各キーを押したときは、キーボタンの外側に表示した機能になります。
- ③ ①～⑩の数字キーと (.) は、周波数とメモリーチャンネルの設定以外にメモリーネームとバンクネームの文字入力 (P 30、31、52) にも使用します。
- ④各キーの機能は、VFOモードまたはメモリーモード、EASYモードによって異なった動作をすることがあります。

キーボタン	キーを単独で押したとき			FUNC を押しながら各キーを押したとき		
	VFOモード時	メモリーモード時	EASYモード時	VFOモード時	メモリーモード時	EASYモード時
POWER	電源を "ON/OFF" する (P11)			電源を "ON/OFF" する (P11)		
MONI	押し続けている間だけスケルチおよびVSCを開く (P12)					
TS MODE	受信モード(電波型式)を切り替える (P15)			チューニングステップのセット表示にする (P17)		
SET CLR	各種の状態を解除する			セットモードに切り替える (P55)		
MW V/M	メモリーモードに切り替える (P23)	VFOモードに切り替える (P15)	メモリーまたはVFOモードに切り替える (P13)	VFO周波数をメモリーに書き込む (P25)	メモリーへの書き込みとメモリーコピー (P25、27)	
DIAL SEL SCAN	フルスキャンをスタートする (P35)	メモリースキャンをスタートする (P40)	プログラムスキャンをスタートする (P36)	ダイヤルセレクト機能を設定する (P19)		ダイヤルセレクト機能を設定する (P19)
SEARCH EASY	EASYモードに切り替える (P13)				CHネームを検索する(P32)	
				編集機能設定時だけカナ入力と英数入力を切り替える (P30、52)		

キー ボタン	キーを単独で押したとき			FUNC を押しながら各キーを押したとき		
	VFOモード時	メモリーモード時	EASYモード時	VFOモード時	メモリーモード時	EASYモード時
LOCK EDIT	PROG-S/AMWS時はスキャン内容を編集する (P50)	メモリー内容を編集する (P28)		ロック機能を "ON/OFF" する (P60)		
NB/ANL ENT	置数を確定する			LSB/USB/CWモードはNB(ノイズブランカー)機能、AMモードはANL(自動雑音制限)機能を "ON/OFF" する (P60)		
AFC .	MHzケタの小数点を入力する			FMモードだけAFC(自動周波数制御)機能を "ON/OFF" する (P59)		
BSCOPE 1				FMモードだけバンドスコープ機能を "ON/OFF" する (P22)		
VSC 2				VSC(ボイススキャンコントロール)機能を "ON/OFF" する (P12, 34)		
SLEEP 3				スリープタイマーを設定する (P61)		
PROG-S 4				プログラムスキャンの機能設定 (P36)		
AMWS 5	受信周波数の置数「1」～「0」を入力する	メモリーチャンネルの置数「1」～「0」を入力する	プログラムバンドの「1」～「0」を選択する	オートメモリーライトスキャンの機能設定 (P38)		
SIGNAVI 6				FMモードだけシグナビ機能を "ON/OFF" する (P49)		
MODE-S 7					モードセレクトスキャンの機能設定 (P43)	
BANK-S 8					バンクスキャンの機能設定 (P41)	
PRIO 9				プライオリティワッチ機能を "ON/OFF" する (P45)		
ATT 0				ATT(アッテネーター)を "ON/OFF" する (P59)		

# 4 基本操作のしかた

付属の充電式ニカド電池を使用の場合は、「充電のしかたと外部電源について(☞P7)」にしたがって充電してください。

SQLツマミは、受信モードにより機能を使い分けています。

## ①スケルチ調整用

無信号時の“ザー”という雑音を消すように調整します。

## ②RFゲイン調整用

強力な近接した電波による妨害や雑音を減少したいときに、受信部の受信感度(利得)を調整します。

VSC(ボイススキャンコントロール)は、固定機に採用して好評を博していた機能を通常のダイヤル選局でも使用できるように改良して搭載しました。

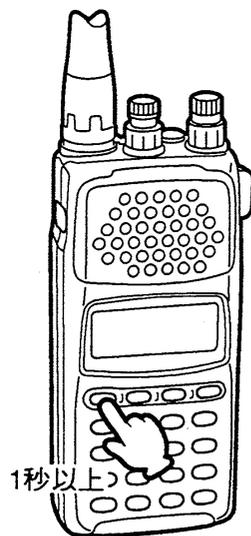
受信モードに関係なく動作し、受信中にスケルチが開いていても、変調(音声など)を含んでいない信号はスケルチが閉じた状態になります。

お買い上げ後は必ずオールリセット(☞P62)をしてください。また、操作途中で設定がわからなくなったときはパーシャルリセット(☞P62)をしてください。

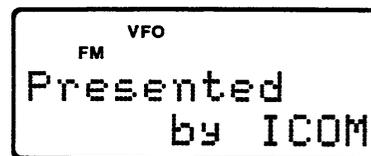
## 1.電源を入れる

① **POWER** を長く(1秒以上)押します。

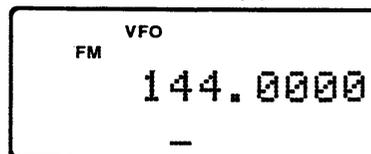
- 「Presented by ICOM」のメッセージを表示したあと、周波数を表示します。
- 電源を切るときも、同じ操作をします。



オープニングメッセージを表示する

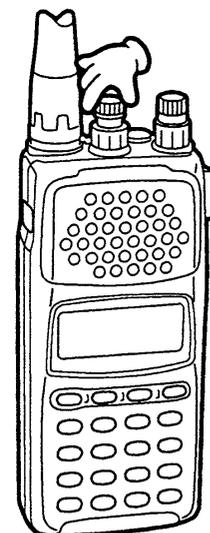


約2秒後に周波数を表示する



## 2.音量を調整する

- ② **VOL** を回し、聞きやすい音量にします。
- 右に回すと音量が増し、左に回すと減少します。

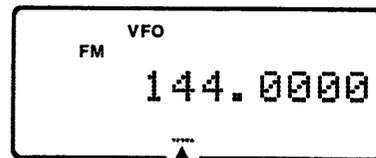
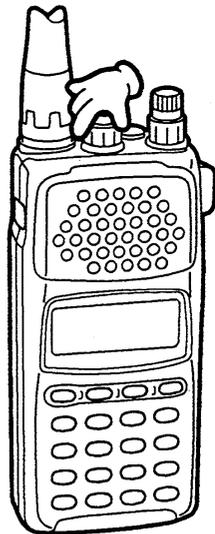


※メッセージを表示しないように、セットモード(☞P55、56

①項)で変更できます。

### 3. スケルチまたはRFゲインを調整する

- ③ FM/WFM/AMモード時は **SQL** を回し、“ザー”という雑音を消します。
  - 信号を受けていないときに右へ回し、雑音の消えた位置から少し右へ回します。
- ④ LSB/USB/CWモード時は通常 **SQL** を左に回し切って、最大感度で使用します。
  - **SQL** を右に回すほど受信感度は低下するので、近接した電波の強度に合わせて調整してください。

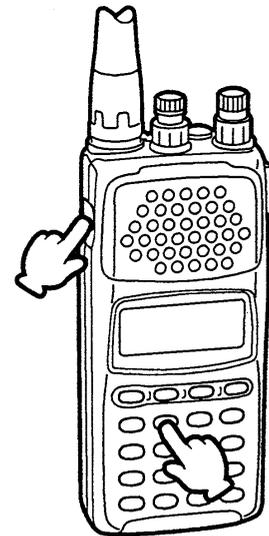


スケルチを調整すると消灯する

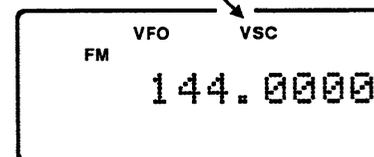
※右へ回しすぎると、雑音だけでなく弱い電波も聞きにくくなりますのでご注意ください。

### 4. VSCを設定する

- ⑤ **FUNC** を押しながら ② (VSC) を押すごとに、VSC機能を“ON/OFF”します。
  - VSC“ON”時、VSC表示が点灯します。
  - 信号が途切れるので、選局時以外は“OFF”にしてください。

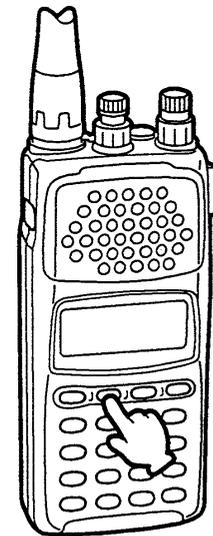


VSC“ON”時点灯する



### ■モニターするには

- スケルチまたはVSC機能を使用すると、弱い信号が途切れて聞こえたり、音声が出なかったりします。
- このような場合に、スケルチまたはVSC機能を一時的に開いて聞けます。
- **MONI** を押し続けている間だけ開きます。



# 5 EASYモードの使いかた

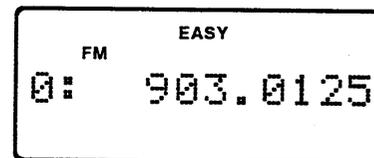
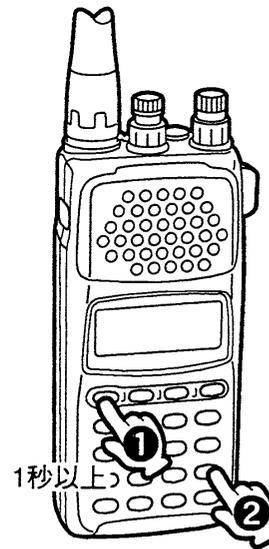
次表のように、①～⑩の数字キーに割り当てている、おもな通信バンドの周波数帯とチューニングステップ、受信モードで、初心者でも簡単に受信できるように設定した操作モードです。

EASYモードの設定内容は、すべて変更(P50)できます。

操作キー	チャンネル名称とバンドの内容	周波数範囲 (MHz)	受信モード	TS (kHz)
①	AM ラジオ AMラジオ	0.5310 ~ 1.6200	AM	9.00
②	FM ラジオ FMラジオ	76.0000 ~ 89.9000	WFM	100.00
③	TV 1-3ch テレビ音声 1~3ch	95.7500 ~ 107.7500	WFM	100.00
④	TV VHF テレビ音声 4~12ch	175.7500 ~ 221.7500	WFM	100.00
⑤	TV UHF テレビ音声 UHF	475.7500 ~ 769.7500	WFM	100.00
⑥	VHF マリン 国際VHFマリン	156.0000 ~ 157.4250	FM	25.00
⑦	エアハント 航空無線 VHF	118.0000 ~ 142.0000	AM	25.00
⑧	144アマチュア 144MHz帯アマチュア無線	144.0000 ~ 146.0000	FM	20.00
⑨	430アマチュア 430MHz帯アマチュア無線	430.0000 ~ 440.0000	FM	20.00
⑩	パーソナル パーソナル無線	903.0125 ~ 904.9875	FM	12.50

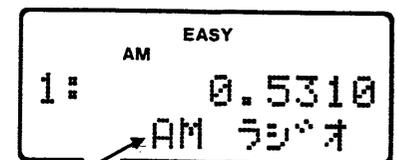
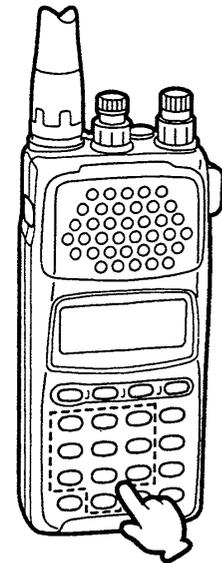
## 1.EASYモードにする

- ① **POWER** を長く (1秒以上) 押し、電源を入れます。
  - ② **EASY** を押し、EASYモードにします。
- 工場出荷時は、プログラムバンド「0」を表示します。



## 2.受信したいバンドを選ぶ

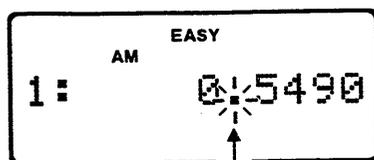
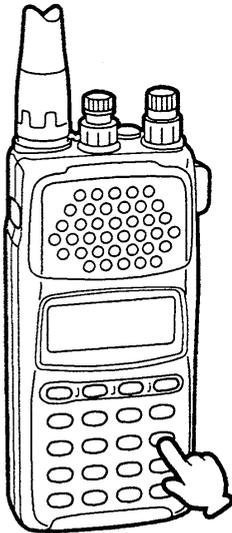
- ③ ①～⑩の数字キーを押し、プログラムバンドを選びます。
- 約2秒間、チャンネル名称を表示します。



約2秒間チャンネル名称を表示する

### 3.自動選局を開始する

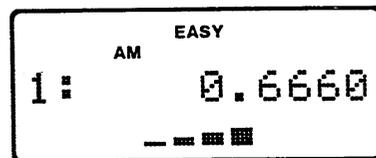
- ④ **SCAN** を押し、自動選局を開始します。
- 信号を受信すると約5秒間その周波数で一時停止し、自動的に再スタートします。再スタートするまでの時間は、編集機能 (P50) で変更できます。
  - 自動選局中に、**DIAL** を右に回すと周波数が高くなり、左に回すと低くなります。



自動選局中は点滅する

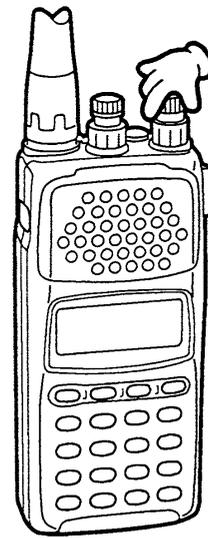
### 4.自動選局を解除する

- ⑤ 聞きたい信号が見つかったら **SCAN** または **CLR** を押し、自動選局を解除します。



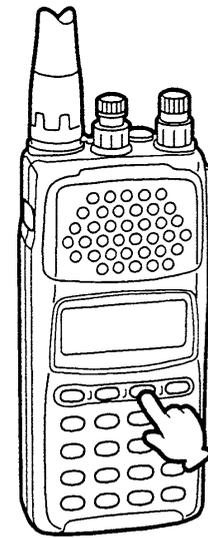
### 5.マニュアル選局する場合

- ⑥ **DIAL** を回して周波数を選んでください。
- **DIAL** を右に回すと周波数が高くなり、左に回すと低くなります。

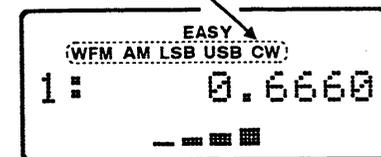


### 6.受信モードを替える場合

- ⑦ **MODE** を押しごとに、FM → WFM → AM → LSB → USB → CW と切り替わります。
- プログラムバンドや操作モード (VFO/メモリーなど) を替えたときは、割り当てている受信モードに戻ります。



受信モードが変わる



# 6

## VFOモードの使いかた

### 6-1 受信モードの選びかた

VFOモードとは、ダイヤルつまみまたはキーボードで周波数を選んで受信する操作モードです。

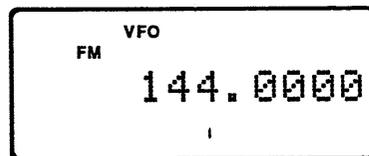
受信モードとは、電波のかたち(電波型式)をいい、受信する放送や通信のモードに合わせて受信モードを選びます。

聞きたい放送や通信に合った受信モードを選ばないと、正常な音に聞こえません。

「AUTO MODE」を選んでおくと、受信モードを気にすることなく快適に受信できます。

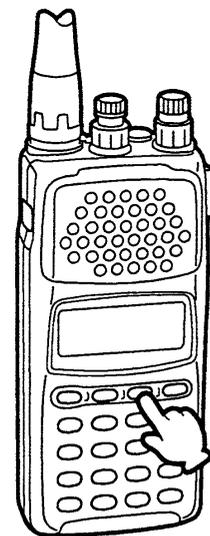
#### 1.VFOモードにする

- ① **(POWER)** を長く(1秒以上)押し、電源を入れます。
- ② **(V/M)** を押してVFOモードを選びます。
  - VFOモード選択時、VFO表示が点灯します。

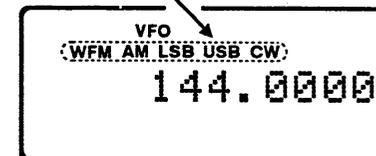


#### 2.受信モードを選ぶ

- ③ **(MODE)** を押すごとに、FM→WFM→AM→LSB→USB→CW→AUTO MODEと切り替わります。



受信モードを選ぶ



## VFOモードの使いかた 6

IC-R10には、下表のとおり6種類の受信モードを備えています。  
また、VFOモードのときだけ受信モードを自動設定してくれるオートモードも備えています。

右表は、周波数範囲と「AUTO MODE」、「AUTO TS (P17)」の関係を表しています。

MODE	意味	用途
FM	Frequency Modulation (周波数変調の略語)	VHF/UHF帯の業務用無線、アマチュア無線などに使用
WFM	Wide band FM (ワイドバンド周波数の略語)	テレビ放送やFMラジオ放送などで使用
AM	Amplitude Modulation (振幅変調の略語)	一般のラジオ(BC、短波)放送、CB無線、VHF/UHF帯の航空無線などで使用
LSB	Lower Side Band (下側波帯の略語)	7MHz帯以下のアマチュア無線などで使用
USB	Upper Side Band (上側波帯の略語)	10MHz帯以上のアマチュア無線などで使用
CW	Continuous Wave (電信の略語)	電信(モールス信号)波を受信するとき使用
AUTO MODE	自動モード	決められた周波数範囲ごとに適切な受信モード(右表参照)を自動設定する

周波数 (MHz)	TS	MODE
0.5000~ 16249	9.00 kHz	AM
1.6250~ 28.9999	5.00 kHz	AM
29.0000~ 75.9999	5.00 kHz	FM
76.0000~ 107.9999	50.00 kHz	WFM
108.0000~ 141.9999	25.00 kHz	AM
142.0000~ 169.9999	5.00 kHz	FM
170.0000~ 224.9999	50.00 kHz	WFM
255.0000~ 469.9999	5.00 kHz	FM
470.0000~ 769.9999	50.00 kHz	WFM
770.0000~ 999.9999	12.50 kHz	FM
1000.0000~1300.0000	10.00 kHz	FM

## 6 VFOモードの使いかた

### 6-2 チューニングステップ (TS) の選びかた

#### A チューニングステップを選ぶには

放送や通信は、一定の周波数間隔で電波を発射しており、その周波数間隔をチューニングステップ (TS) といいます。

チューニングステップは、ダイヤルツマミで選局するときや各種スキャン機能で自動選局するとき、目的の放送や通信に合わせて選びます。

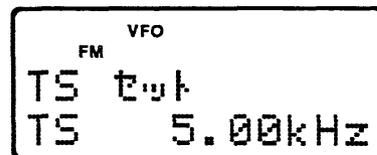
IC-R10には、0.1/0.5/1/5/6.25/8/9/10/12.5/15/20/25/30/50/100 kHzの15ステップを備えています。周波数範囲とオートTSの関係は、前ページをご覧ください。

#### 1. TSセット表示にする

- ① VFOモードで、**FUNC** を押しながら **MODE** (TS) を押します。
  - TSセット表示が点灯します。

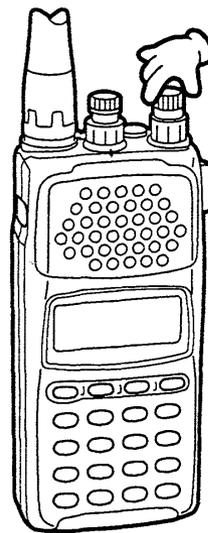


TSセット表示

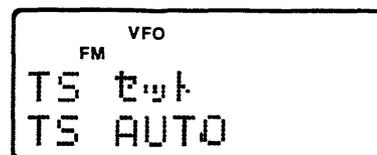


#### 2. チューニングステップを選ぶ

- ② **DIAL** を回すと、5.00 ↔ AUTO ↔ 6.25 ↔ … ↔ 100.00 ↔ ユーザーTS ↔ 0.10 ↔ … ↔ 1.00kHzと切り替わります。
  - AUTO (オートTS) は、常に現在使用しているチューニングステップの次に表示します。



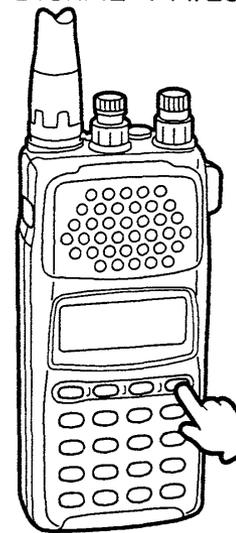
オートTSを選んだときの表示



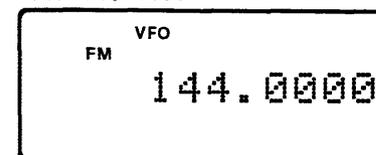
#### 3. 周波数表示に戻る

- ③ **CLR** を押し、周波数表示に戻ります。
  - **DIAL** を回したとき、変更したTS値以下の周波数ケタは「0」に補正します。

《例》 TS5kHz 144.2222MHz  
↓ **DIAL** を右に回すと  
TS10kHz 144.2300MHz



周波数表示に戻る



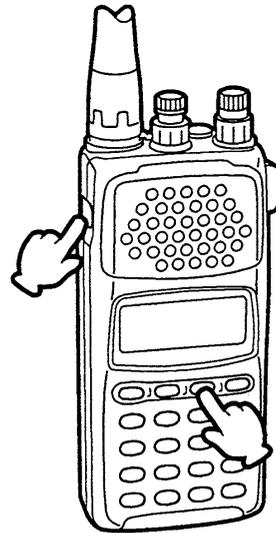
### BユーザーTSの設定方法

IC-R10には、15種類のチューニングステップを備えていますが、それ以外にも0.10~999.90kHzまでの範囲で任意のチューニングステップを設定できます。

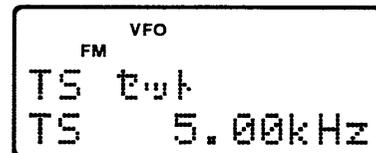
ユーザーTSを利用し、チューニングステップを直接入力できます。ただし、ユーザーTSエリアのチューニングステップは、そのつど入れ替わりますのでご注意ください。

#### 1.TSセット表示にする

- ① VFOモードで、**FUNC**を押しながら**MODE**(TS)を押します。
- TSセット表示が点灯します。



TSセット表示



#### 2.TSを入力する

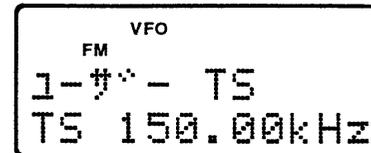
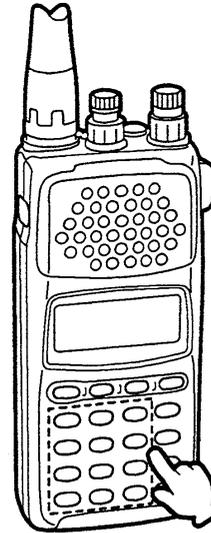
- ② **DIAL** 操作例にしたがってキー入力すると、「ユーザーTS」エリアに自動登録します。
- 入力途中でまちがいに気づいたときは、**CLR**を押します。

《例1》150kHzの場合

① 5 0 . 0 または  
① 5 0 ENT と押す

《例2》0.2kHzの場合

0 . 2 と押す



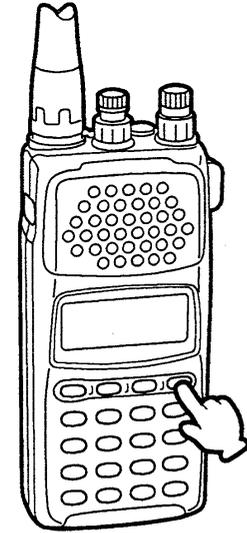
#### 3.周波数表示に戻る

- ③ **CLR**を押すと、周波数表示に戻ります。
- **DIAL**を回したとき、変更したTS値以下の周波数ケタは保持します。

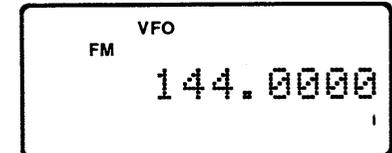
《例》TS5kHz 144.2222MHz

↓ **DIAL**を右に回すと

ユーザーTS10kHz 144.2322MHz



周波数表示に戻る



## 6 VFOモードの使いかた

### 6-3 周波数を大きく変えるダイヤルセレクト機能

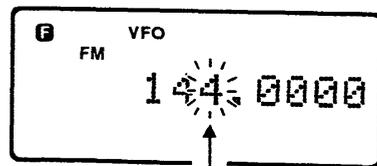
周波数を大幅に移動するときにはダイヤルセレクト機能が便利です。

あらかじめ(1)の操作で変更したいケタ(100kHzまたは1/10/100MHz)をプリセットしておけば、必要ときに(2)の操作をするだけで簡単に変更できます。

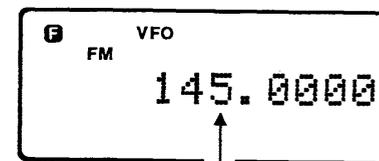
#### (1)周波数変更ケタをプリセットする (2)周波数を大幅に変える

- ① **FUNC** を押しながら **SCAN** (DIAL SEL) を何回か押し、プリセットしておきたいケタを選びます。
  - **F**表示が点灯し、選んでいる変更ケタが点滅します。

- ② **FUNC** を押しながら **DIAL** を押します。
  - プリセットしている変更ケタで、周波数がアップまたはダウンします。



プリセットしたケタが点滅する



プリセットしているケタが変化する

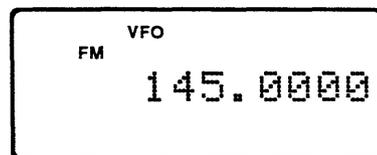
## 6-4 マニュアル選局のしかた

受信したい放送や通信の周波数がわからない場合、または正確な同調をとる場合に用いる方法です。

あらかじめ設定したチューニングステップ(☞P17)で周波数を設定します。

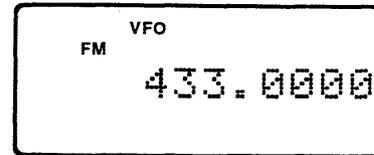
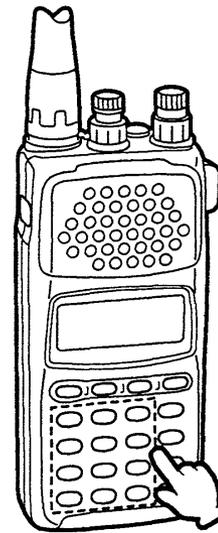
### 1. VFOモードにする

- ① **POWER** を長く(1秒以上)押し、電源を入れます。
- ② **V/M** を押してVFOモードにします。



### 2. 希望の周波数を入力する

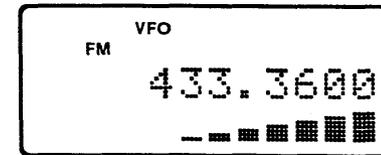
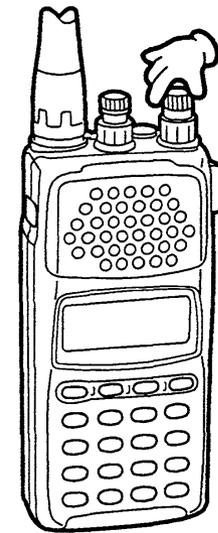
- ③ キーボードで、聞きたい放送や通信付近の大まかな周波数をキー入力(☞P21)します。



### 3. 選局して同調をとる

- ④ シグナルバーが最もよく振れ、目的信号が明りょうに聞こえるように、**DIAL** を回して合わせます。

  - **DIAL** を右に回すと周波数がアップし、左に回すとダウンします。



## 6 VFOモードの使いかた

### 6-5 ダイレクト選局のしかた

受信したい放送や交信する周波数がわかっている場合など、ダイヤルツマミを操作することなく、キーボードで直接周波数を設定できます。

#### 1.VFOモードで聞きたい局の周波数を入力する

- ① **POWER** を長く(1秒以上)押し、電源を入れます。
- ② **V/M** を押し、VFOモードにします。
- ③ 操作例にしたがってキー入力します。
  - 周波数帯域外の周波数を入力するとピープ音が“ブツ”と鳴り、入力前の周波数に戻ります。

《例1》 0.8100MHz (810kHz)  
の場合

0 . 8 1 ENT と押す

《例2》 7.0000MHzの場合

7 ENT と押す

《例3》 145.5000MHzの場合

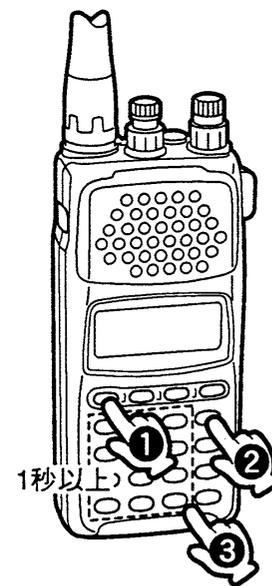
1 4 5 . 5 ENT と  
押す

《例4》 1296.4500MHzの場合

1 2 9 6 . 4 5  
ENT と押す

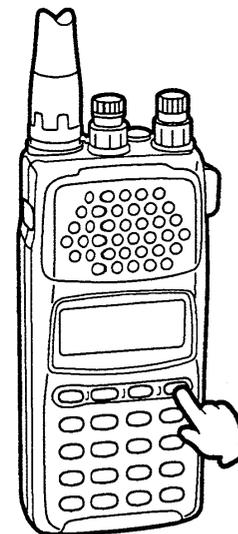
《例5》 1296.4500MHzを

1296.7800MHzに変更  
. 7 8 ENT と押す

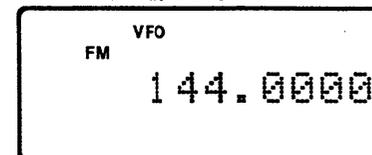


#### 2.まちがったときは

- ④ キー入力の途中でまちがいに気づいたときは **CLR** を押し、もう一度はじめからキー入力してください。



キー入力する前の表示に戻る



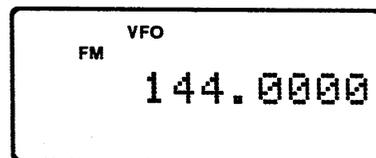
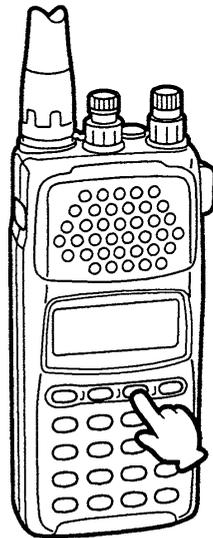
## 6-6 バンドスコープ機能の使いかた

バンドスコープとは、一定の周波数範囲内で信号が出ていないかをチェックするときに、目で見えるようにした機能です。

チューニングステップが、そのままバンドスコープのスイープステップ(ただし、20kHz以下)となり、表示周波数の前後5チャンネル分を表示します。

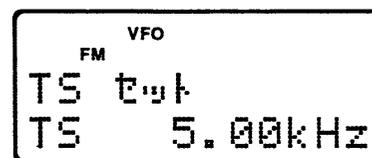
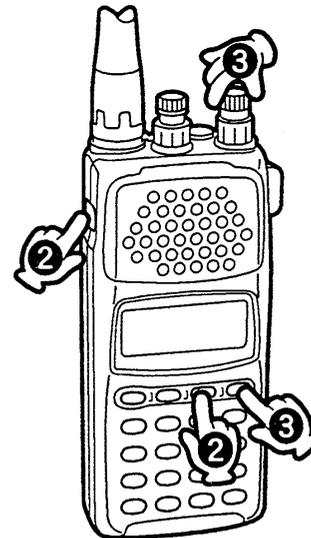
### 1.FMモードにする

- ① VFOモードで、**(MODE)** を何回か押してFMモードにします。
- VFOモードのFMモード以外では動きません。



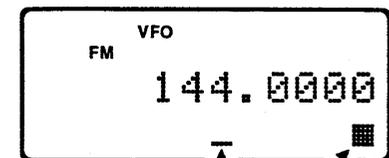
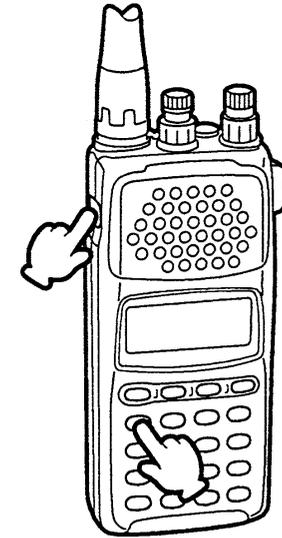
### 2.スイープステップを選ぶ

- ② **(FUNC)** を押しながら **(MODE)** (TS) を押します。
- ③ **(DIAL)** を回してチューニングステップを選び、**(CLR)** を押します。
- 20kHzを超えたチューニングステップを設定しているときは、スイープステップだけ20kHzに自動設定します。



### 3.バンドスコープを表示する

- ④ **(FUNC)** を押しながら ① (**BSCOPE**) を押します。
- バンドスコープを解除するときも、同じ操作または **(CLR)** を押してください。



表示周波数の位置を表す  
表示周波数+25kHzの周波数に信号が出ていることを表す

# 7

## メモリーモードの使いかた

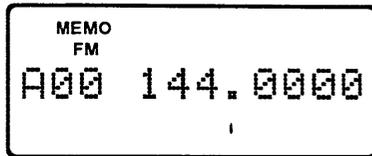
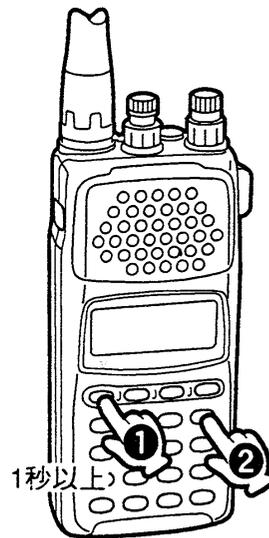
### 7-1 メモリーモードとメモリーバンクの切り替えかた

よく使用する周波数や受信情報などを、あらかじめ記憶させておき、このメモリーチャンネルで運用するための操作モードです。本機は1000チャンネルのメモリーチャンネルを用意し、メモリーチャンネルを扱いやすくするために、下表のとおり18グループに分けています。そのグループ分けをメモリーバンクといいます。

メモリーバンク	メモリーチャンネル	用 途
A ~ P	00 ~ 49 (50チャンネル) 合計800チャンネル	<ul style="list-style-type: none"> <li>●通常のメモリーチャンネルとして使用する</li> <li>●メモリーバンクの「A~P」のメモリーチャンネル「00」には、「144.0000 (MHz)」を書き込んでいる</li> <li>●他のメモリーチャンネルは、すべてブランク (空白) 状態である</li> </ul>
Q	00 ~ 99 (100チャンネル)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●オートメモリーライトスキャン時の自動書き込みエリアとして使用する</li> <li>●メモリーチャンネルは、すべてブランク (空白) 状態である</li> <li>●通常のメモリーチャンネルとしても使用できる</li> </ul>
R	00 ~ 99 (100チャンネル)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●プログラムスキャン時のスキップ機能指定書き込みエリアとして使用する</li> <li>●メモリーチャンネルは、すべてブランク (空白) 状態である</li> <li>●通常のメモリーチャンネルとしても使用できる</li> </ul>

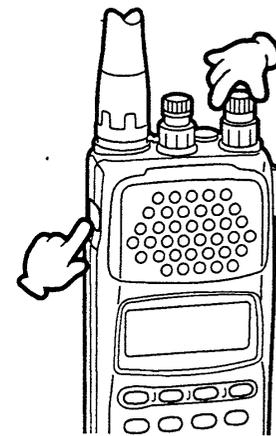
#### 1.メモリーモードにする

- ① **FUNC** を長く (1秒以上) 押し、電源を入れます。
- ② **V/M** を押し、メモリーモードにします。

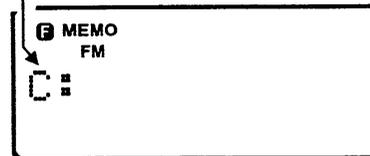


#### 2.メモリーバンクを選ぶ

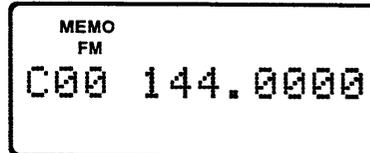
- ③ **FUNC** を押しながら **DIAL** を回し、メモリーバンクを選びます。
- 約3秒後にメモリー内容を表示します。



メモリーバンクだけが変化する



操作終了後、約3秒でメモリー内容を表示する



## 7-2 メモリーチャンネルの呼び出しかた

メモリーチャンネルを呼び出すには、基本的にはダイヤルツマミによるマニュアルコールと、テンキーによるダイレクトコールの2種類があります。

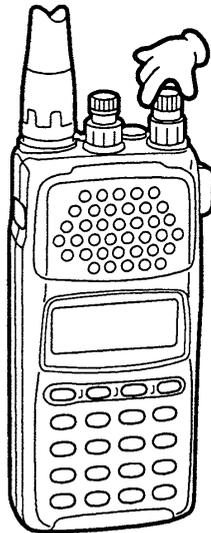
また、次ページのチャンネルネーム検索機能を使用すれば、大量のメモリーデータの中からすばやく目的のメモリーチャンネルを探し出せます。

マニュアルコールでは、周波数を書き込んでいるメモリーチャンネルだけを呼び出すので、わずらわしさを感じません。

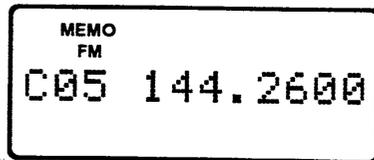
ダイレクトコールは、周波数を書き込んでいないメモリーチャンネルも呼び出せるので、使用中のメモリーチャンネルから離れたチャンネルを呼び出すときに便利です。

### (1) マニュアルコールのしかた

- ①メモリーバンクを確認します。
- ② **DIAL** を回すと、メモリーしているチャンネルだけを表示します。



メモリーしているチャンネルだけを表示する



### (2) ダイレクトコールのしかた

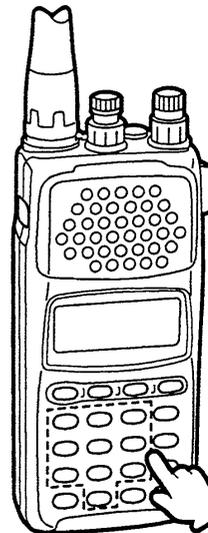
- ①メモリーバンクを確認します。
  - ②操作例にしたがってキー入力します。
- チャンネル番号のない数値を入力するとビープ音が“ブツ”と鳴り、入力前のメモリーチャンネルに戻ります。

《例1》メモリーチャンネル「02」の場合

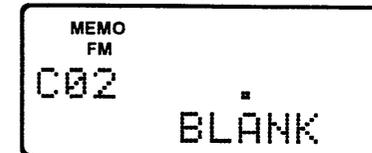
0 2 と押す

《例2》メモリーチャンネル「49」の場合

4 9 と押す



メモリーしていないチャンネルは「BLANK」を表示する



## 7 メモリーモードの使いかた

### 7-3 メモリーモードの書き込みかた

#### AVFOモードでメモリー先を探して書き込む場合

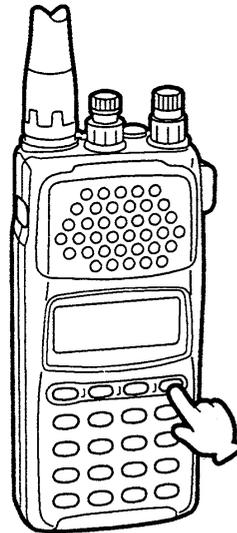
各チャンネルには、現在受信しているメモリーチャンネルのデータ(周波数、モード、ATTなど)を、空白チャンネルに書き込むときに有効な書き込み方法です。

編集機能(☞P28)で、チャンネルネームやバンクネーム、スキップ機能などを簡単に編集できます。

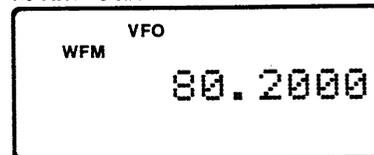
《例》メモリーバンクの「B」、メモリーチャンネルの「01」に「WFM 80.2000MHz」を書き込む場合

#### 1. 周波数を設定する

- ① **V/M** を押し、VFOモードにします。
- ② マニュアル選局(☞P20)またはダイレクト選局(☞P21)でメモリーに書き込みたい周波数を設定します。

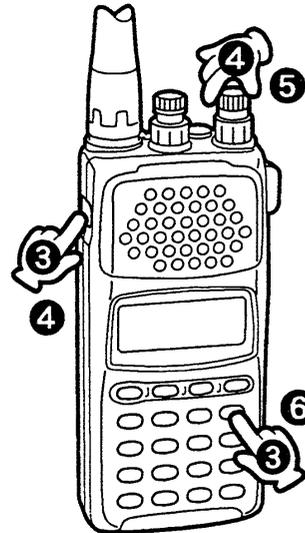


周波数や受信モードを設定する

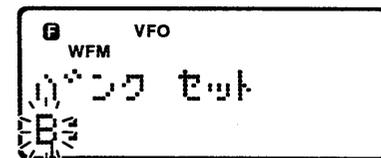


#### 2. メモリー先を指定して書き込む

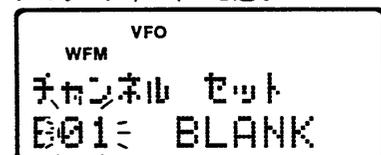
- ③ **FUNC** を押しながら **V/M** (MW) を短く押し、メモリー先指定表示にします。
- ④ **FUNC** を押しながら **DIAL** を回し、メモリーバンクを選びます。
- ⑤ **FUNC** を離して **DIAL** を回し、メモリーチャンネルを選びます。
  - 空白チャンネルを選ぶと、「BLANK」を表示します。
- ⑥ ビープ音が「ピッピビ」と鳴るまで **V/M** (MW) を長く押し、指定チャンネルに書き込みます。
  - 書き込みを完了すると周波数表示に戻ります。



メモリーバンクを選ぶ



メモリーチャンネルを選ぶ



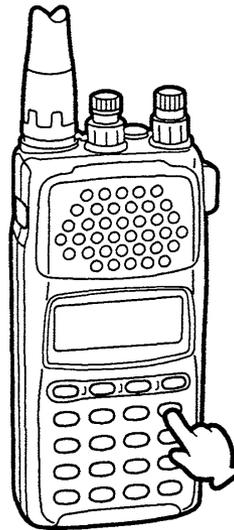
④メモリーモードでメモリー先を探して書き込む場合

不要になったメモリーチャンネルのデータを消去し、新しいメモリーデータに書きなおすときに有効な書き込み方法です。もちろん編集機能(☞P28)を利用して書きなおすこともできます。

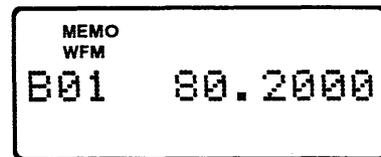
《例》メモリーチャンネル「B01 WFM 80.2000MHz」の上から、新たに「WFM 76.5000MHz」を書き込む場合

1.メモリー先を設定する

- ① **V/M** を押し、メモリーモードにします。
- ② マニュアルコールまたはダイレクトコール(☞P24)で新しいデータに書きなおしたいメモリーチャンネルを設定します。

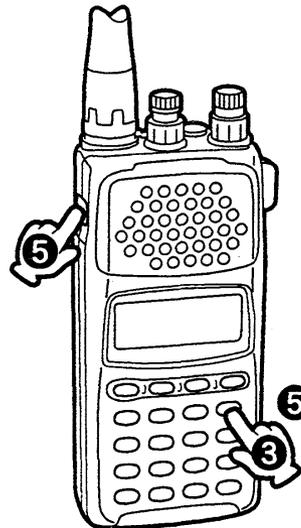


書きなおしたいメモリーチャンネルを選ぶ

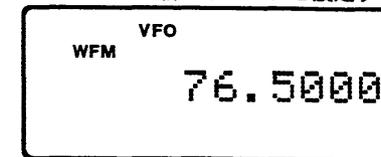


2.周波数を設定して書き込む

- ③ **V/M** を押し、VFOモードにします。
- ④ マニュアル選局(☞P20)またはダイレクト選局(☞P21)でメモリーに書き込みたい周波数を設定します。
- ⑤ ビープ音が“ピッピピ”と鳴るまで、**FUNC** を押しながら **V/M** (MW) を長く押しします。



VFOモードで新たなデータを設定する



## 7 メモリーモードの使いかた

### 7-4 メモリーコピーのしかた

メモリーチャンネルを呼び出し、そのメモリー内容をVFOモードまたは他のメモリーチャンネルにコピーできます。

VFOモードへのコピーは、メモリー内容の周波数近辺を受信してみたいようなときに便利です。

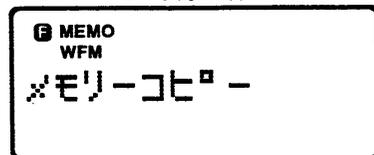
他のメモリーチャンネルへのコピーは、メモリーバンクの編集やオートメモリーライトスキャンによる自動選局でメモリーバンク「R」に書き込んだ周波数データの編集に使用します。

#### (1) VFOモードにコピーする

- ①メモリーモードで、コピーしたいメモリーチャンネルを呼び出します。
- ②ビーブ音が“ピッピビ”と鳴るまで **FUNC** を押しながら、**V/M** (MW) を長く押しします。
- VFOモードにコピーし、VFOモードに移ります。

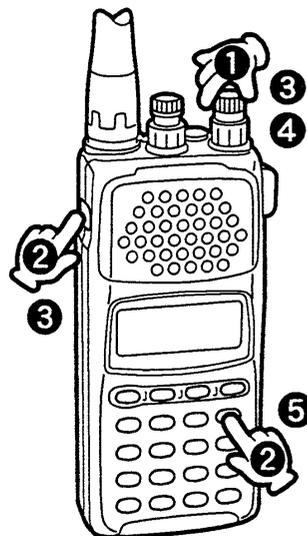


メモリーコピー表示が約2秒点灯

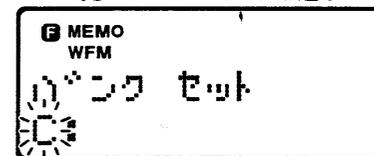


#### (2) 他のメモリーチャンネルにコピーする

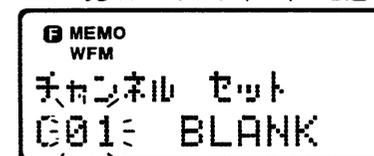
- ①コピーしたいメモリーチャンネルを呼び出します。
- ② **FUNC** を押しながら **V/M** (MW) を短く押し、メモリーコピー表示にします。
- ③ **FUNC** を押しながら **DIAL** を回し、コピー先のメモリーバンクを選びます。
- ④ **FUNC** を離して **DIAL** を回し、コピー先のメモリーチャンネルを選びます。
- 空白チャンネルを選ぶと、「BLANK」を表示します。
- ⑤ビーブ音が“ピッピビ”と鳴るまで **V/M** (MW) を長く押し、指定チャンネルにコピーします。



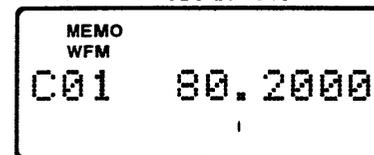
コピー先のメモリーバンクを選ぶ



コピー先のメモリーチャンネルを選ぶ



メモリーコピー完了後の表示

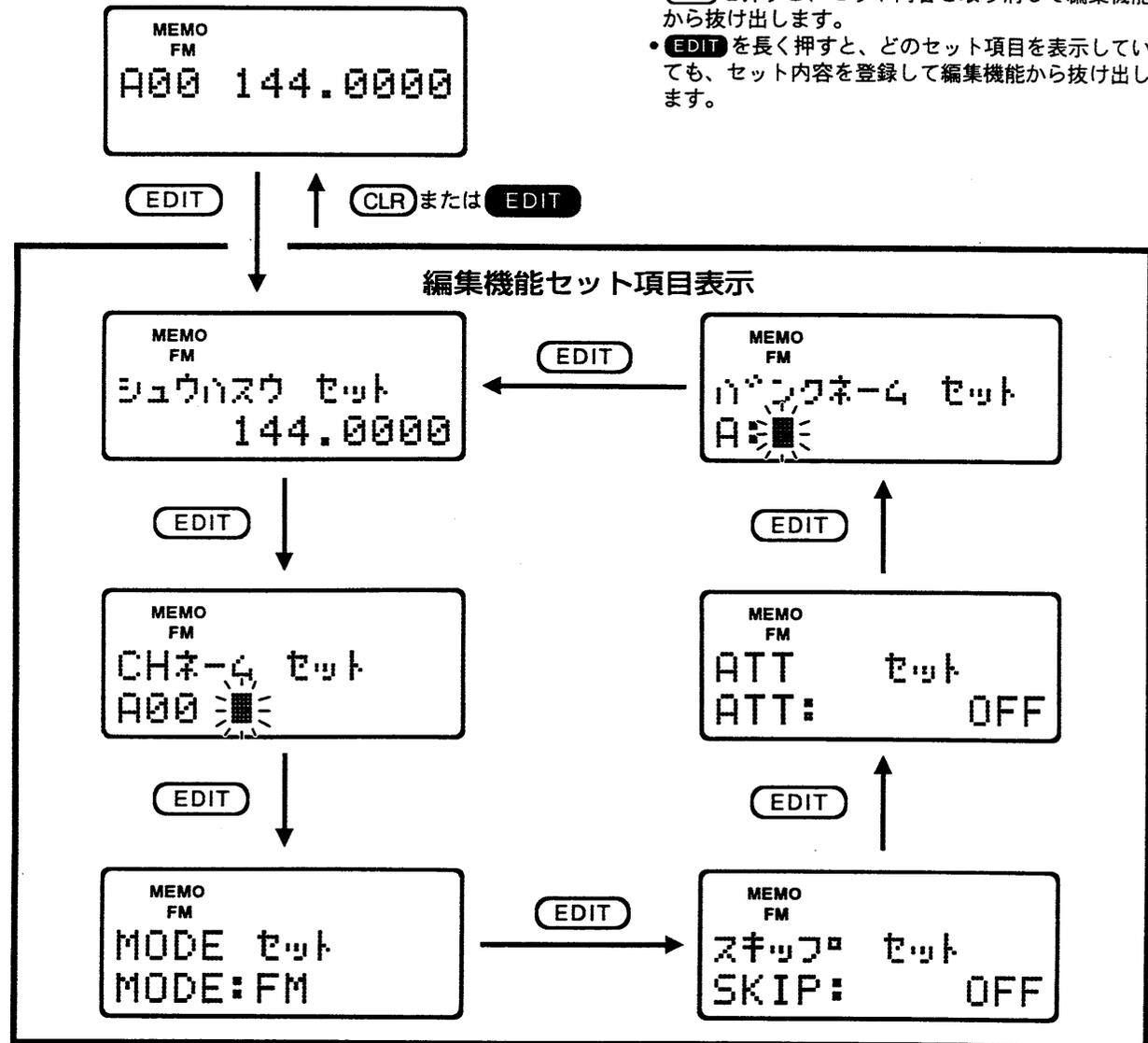


## 7-5 メモリーチャンネルの編集

メモリーチャンネルに書き込んでいる下記の内容を簡単に編集できます。

- **シュウハスウ セット**  
受信周波数を変更またはメモリーチャンネルを消去できます。
- **CHネーム セット**  
メモリーチャンネルのネームを設定（アルファベット、カナ、数字を8文字入力可能）できます。
- **MODE セット**  
受信モードを変更できます。
- **スキップ セット**  
スキップ機能（P47）の“ON/OFF”を変更します。
- **ATT セット**  
アッテネーター機能（P59）の“ON/OFF”を変更できます。
- **バンクネーム**  
メモリーバンクのネームを設定（アルファベット、カナ、数字を10文字入力可能）できます。

### ● メモリーモードでのセット項目の流れ



- **EDIT** は短く押す、**EDIT** は長く押すの意味です。
- **CLR** を押すと、セット内容を取り消して編集機能から抜け出します。
- **EDIT** を長く押すと、どのセット項目を表示していても、セット内容を登録して編集機能から抜け出します。

## 7 メモリーモードの使いかた

### 7-5 メモリーチャンネルの編集(つづき)

メモリーチャンネルに書き込んで  
いる下記の6項目を変更できます。

《例》メモリーチャンネルの「B01」  
に、下記の項目内容を変更し  
ます。

- 受信周波数  
: 0.6660MHz  
(666 kHz)
- チャンネルネーム  
: NHK第2
- 受信モード  
: AM
- スキップ機能の指定  
: OFF
- ATT機能の設定  
: OFF
- バンクネーム  
: AMラジオ

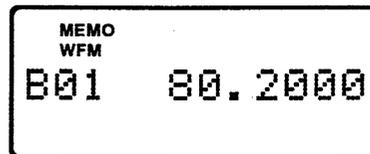
※スキップ機能の詳細は47ページ、  
ATT(アッテネーター)機能の  
詳細は59ページをご覧ください。

#### 1. 変更したいチャンネルを呼び出す

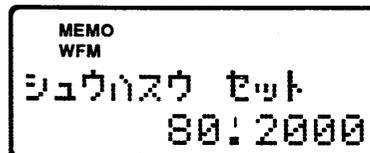
- ①メモリーモードで、**FUNC**を押しながら**DIAL**を  
回してメモリーバンク「B」を選びます。
- ② **FUNC**を離して**DIAL**を回し、メモリーチャ  
ンネル「01」を選びます。
  - BLANK(空白)チャンネルは、編集できませんの  
で、あらかじめメモリーチャンネルに周波数を書き  
込んでください。
- ③ **EDIT**を押して編集機能に入り、「シュウハスウセ  
ット」のセット項目を表示します。



メモリーチャンネルを呼び出す



周波数セット項目を選ぶ

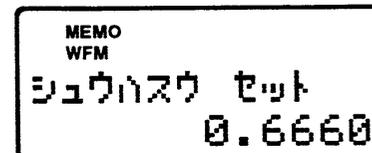
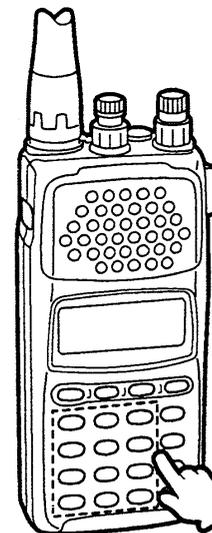


#### 2. 周波数のセット項目を変更する

- ④操作例にしたがって周波数をキー入力し  
ます。
  - **DIAL**でも設定できます。

《例》0.6660MHz (666 kHz)にする場合

**0 . 6 6 6 ENT** と押す

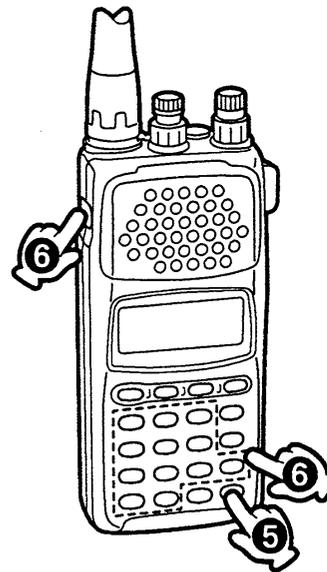


### 3.CHネームのセット項目を選んで文字を入れる

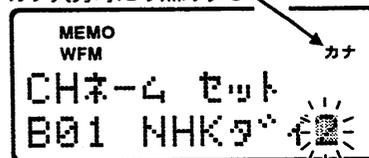
- ⑤ **EDIT** を短く押し、「CHネーム セット」を選びます。
- ⑥ 操作例にしたがってキー入力します。
  - **DIAL** 使用時は、選んだ文字を **ENT** で確定します。
  - 入力できる文字は、68ページの「一覧表」をご覧ください。
  - キーボードでカナ入力するときは、**FUNC** を押しながら **EASY** (カナ) を押し、カナ表示を点灯させます。
  - 英数入力に戻すときも、同じ操作をしてください。
  - 文字入力をまちがったときは、52ページの「まちがったときは」にしたがって操作してください。

#### 《例》「NHKダイ2」を入力する場合

キ ー 操 作	表 示	入力モード
⑥ を2回押す	N	英数入力
④ を2回押す	NH	英数入力
⑤ を2回押す	NHK	英数入力
<b>FUNC</b> + <b>EASY</b> (カナ) を押す	カナ表示点灯	カナ入力
④ を1回押す	NHKタ	カナ入力
○ を1回押す	NHKタ`	カナ入力
① を2回押す	NHKタ`イ	カナ入力
<b>FUNC</b> + <b>EASY</b> を押す	カナ表示消灯	英数入力
② を4回押す	NHKタ`イ2	英数入力

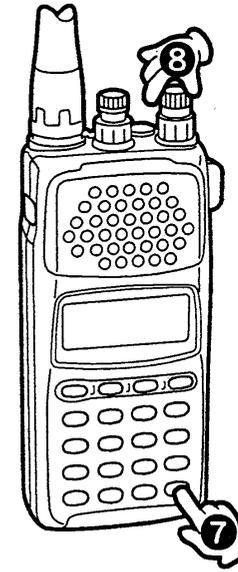


カナ入力時だけ点灯する

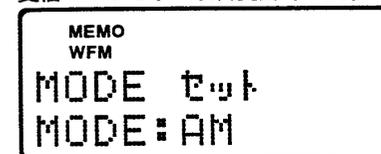


### 4.MODE/スキップ/ATTを設定する

- ⑦ **EDIT** を短く押し、「MODE セット」または「スキップ セット」、「ATT セット」のセット項目を選びます。
- ⑧ **DIAL** を回して設定値を選びます。
  - セット項目ごとに、⑦と⑧の操作を繰り返します。



受信モードセット項目変更時の表示



# 7 メモリーモードの使いかた

## 7-5 メモリーモードの編集(つづき)

### 5.バンクネームのセット項目を選んで文字を入れる

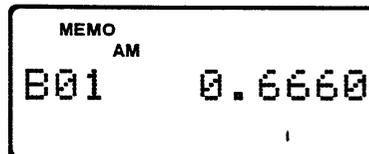
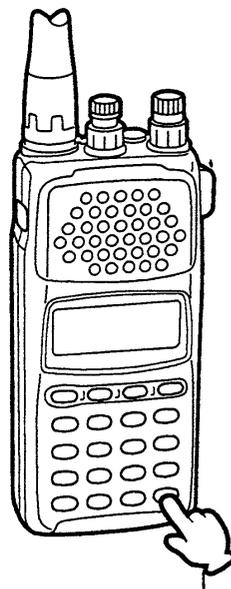
- ⑨ **EDIT** を短く押し、「バンクネーム セット」を選びます。
- ⑩ 操作例にしたがってキー入力します。
  - **DIAL** 使用時は、選んだ文字を **ENT** で確定します。
  - 入力できる文字は、68ページの一覧表をご覧ください。
  - キーボードでカナ入力するときは、**FUNC** を押しながら **EASY** (カナ) を押し、カナ表示を点灯させます。
  - 英数入力に戻すときも、同じ操作をしてください。
  - 文字入力をまちがったときは、52ページの「まちがったときは」にしたがって操作してください。

#### 《例》「AM ラジオ」を入力する場合

キ ー 操 作	表 示	入力モード
② を1回押す	A	英数入力
⑥ を1回押す	AM	英数入力
<b>ENT</b> を2回押す	AM	英数入力
<b>FUNC</b> + <b>EASY</b> (カナ) を押す	カナ表示点灯	カナ入力
⑨ を1回押す	AM ラ	カナ入力
③ を2回押す	AM ラシ	カナ入力
。 を1回押す	AM ラシ`	カナ入力
① を5回押す	AM ラシ`オ	カナ入力

### 6.設定内容を確認して登録する

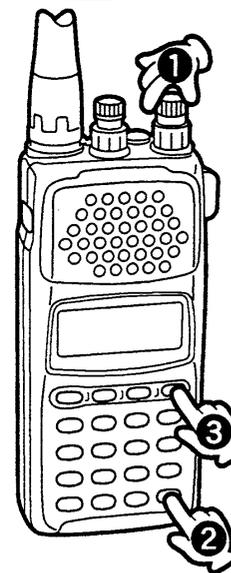
- ⑪ **EDIT** を何回か短く押し設定内容を確認し、ビープ音が“ピッピ”と鳴るまで **EDIT** を長く押します。
- まちがっているときは、もう一度設定しなおしてください。



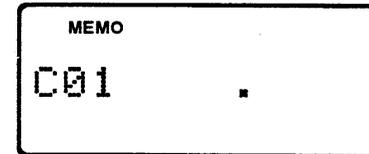
### ■メモリーチャンネルの消去

不要になったメモリーチャンネルを消去できます。

- ① 消去したいメモリーチャンネルを選びます。
- ② **EDIT** を押し、周波数セット表示にします。
- ③ ビープ音が“ピッピー”と鳴るまで **CLR** を長く押します。



消去後の表示



## 7-6 検索機能の使いかた

1000チャンネルもある大量の周波数データの中から、目的の周波数データをすばやく探し出す機能です。

### 検索文字と検索結果について

- (1) 検索文字を「N」または「NHK」のように、チャンネル名称の先頭部から一部を入力したときは、検索文字ではじまるメモリーデータ(例: NHK第1とNHK第2など)をすべて探します。
- (2) チャンネル名称をすべて入力すると、検索文字と完全に一致するメモリーデータだけを探します。

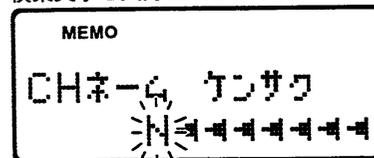
《例》メモリーチャンネルの編集(P28)で、メモリーチャンネルの「B01」に登録した「NHK第2」を呼び出してみます。

### 1. 検索文字を入力する

- ① メモリーモードで、**(FUNC)** を押しながらか **(EASY)** (SEARCH) を押します。
- ② **(6)** を2回押し、検索文字「N」を入力します。

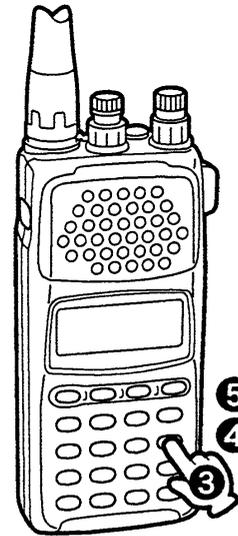


検索文字を入力したときの表示

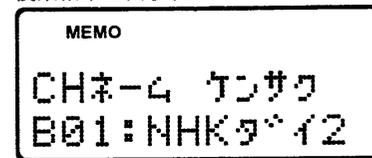


### 2. 検索結果を確認する

- ③ **(SCAN)** を押すと検索を開始し、検索結果を表示します。
  - ④ **(SCAN)** を押すごとに第2、第3の検索結果を表示します。
  - ⑤ もう一度 **(SCAN)** を押すと、③～④の操作を繰り返します。
- 検索文字がない場合とすべての検索結果を表示した場合は、「ミツカリマセン」と表示します。

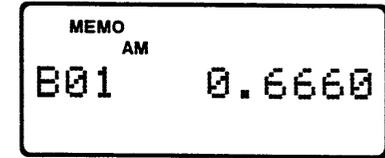
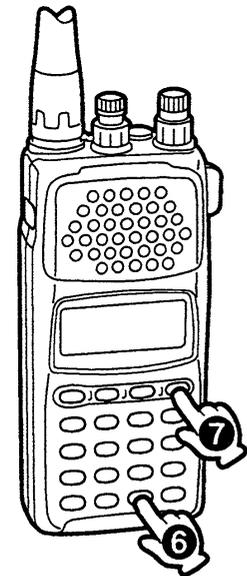


検索結果を表示する



### 3. メモリー内容を呼び出す

- ⑥ 検索結果のメモリー内容を呼び出したいときは、**(ENT)** を押します。
- ⑦ 検索結果を呼び出さない、または検索途中で検索機能を終了したいときは、**(CLR)** を2回押します。



# 8 スキャンによる自動選局のしかた

## 8-1 スキャンについて

スキャンとは、周波数やメモリーチャンネル (M-CH) を自動的に切り替えて、信号の出ているところを探し出す自動選局機能です。

基本となるスキャンの種類は、右表のとおり、VFOモードで使用するスキャンを3種類、メモリーモードで使用するスキャンを3種類用意しています。

また、スキャンの追加機能を併用すると、より繊細な自動選局ができます。

- 自動選局のスピードについて  
VFOモード系の自動選局  
：約16.7 CH/秒  
メモリーモード系の自動選局  
：約6.25 CH/秒

自動選局の種類	動作	操作モード	参照
フルスキャン	VFOモードで表示するすべての周波数範囲を自動選局する	VFOモード	P 35
プログラムスキャン	プログラムチャンネルに設定した周波数範囲だけを自動選局する	VFOモード	P 36
オートメモリーライトスキャン	プログラムチャンネルに設定した周波数範囲を自動選局し、信号を受信した周波数を自動的にメモリーチャンネル「Q00~99」に書き込む	VFOモード	P 38
メモリースキャン	周波数を書き込んでいるメモリーチャンネルのすべてを自動選局する	メモリーモード	P40
バンクスキャン	特定のメモリーバンクに書き込んでいるメモリーチャンネルだけを自動選局する	メモリーモード	P41
モードセレクトスキャン	特定の受信モードで書き込んでいるメモリーチャンネルだけを自動選局する	メモリーモード	P43

自動選局の追加機能	動作	対象となる自動選局	参照
プライオリティワッチ機能	周波数またはメモリーチャンネルを聞きながら、プライオリティチャンネルを監視する	すべての自動選局	P45
スキップ機能	スキップ指定した周波数またはメモリーチャンネルを飛び越えて自動選局する	すべての自動選局	P47
シグナビ機能	FMモードで自動選局中に、信号を探して一時停止すると、その信号を受信しながら100kHz先までに信号が無いかを探し出す	フルスキャンとプログラムスキャンによる自動選局	P49

スキャンによる自動選局をする前に、各種条件を設定してください。

■自動選局中のダイヤルつまみ

- 自動選局中に **(DIAL)** を回すと、回した方向でアップスキャンとダウンスキャンを切り替えます。  
アップスキャンとは低い周波数から高い周波数の方向に自動選局することをいい、ダウンスキャンはこの逆方向に自動選局することをいいます。
- 信号を受信して自動選局を一時停止しているときに、 **(DIAL)** を回すと即時再スタートします。

(1) 受信モードを設定する

LSB/USB/CWモードでのスケルチつまみは、RF GAINつまみとして動作するので、自動選局しても常に信号を受信した状態になります。

- **(MODE)** を押し、受信モードをLSB/USB/CW以外のモードを選びます。

(2) スケルチを調整する

自動選局中、信号を受信したときだけ自動選局が一時停止するようにします。

- **(SQL)** を回し、“ザー”という雑音を消します。

(3) VSCを設定する

自動選局中に信号を受信してスケルチが開いても、音声を含んでいる信号かどうかを確認しながら一時停止する機能です。

単一変調音やノイズを含む信号で一時停止しても、すぐに再スタートします。

- **(FUNC)** を押しながら **(2)** (VSC) を押すごとに、VSC機能を“ON/OFF”します。
- 信号が途切れるので、選局時以外は“OFF”にしてください。
- VSC “ON” 時、VSC表示が点灯します。

(4) スキャンディレイタイムの設定

自動選局が一時停止したあと、自動選局を再スタートするまでの時間を設定します。

- プログラムスキャンとオートメモリーライトスキャンによる自動選局のディレイタイムは、編集機能 (P50) でそれぞれのプログラムチャンネルごとに設定できます。
- フルスキャンまたはメモリーモード系のスキャンによる自動選局のディレイタイムは、セットモードの「スキャンディレイの設定 (P55、57⑧項)」で設定します。

## 8 スキャンによる自動選局のしかた

### 8-3 フルスキャンによる自動選局のしかた

フルスキャンとは、すべての周波数範囲(0.5000~1300.0000MHz /一部周波数を除く:☞P67)を自動的に切り替え、信号の出ている周波数を探し出す自動選局です。

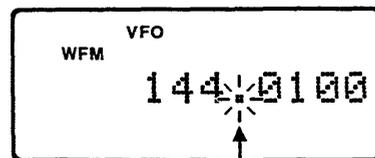
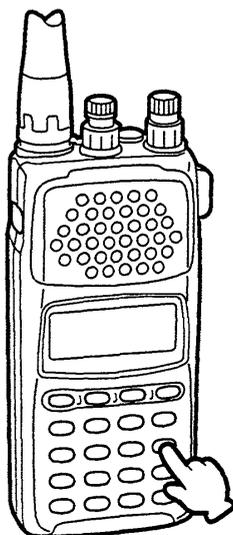
- 自動選局をする前に、必ず「自動選局をする前に(☞P34)」の事項をご確認ください。
- スキップ機能使用時(☞P47)は、メモリーバンク「R」に登録したメモリーチャンネルの周波数を飛び越えて自動選局します。

#### 1.自動選局を開始する

- ①VFOモードで **(SCAN)** を押すと、フルスキャンによる自動選局がスタートします。
  - 自動選局時、周波数表示のMHzケタ用小数点が点滅します。
  - 信号を受信すると約5秒間その周波数で一時停止し、自動的に再スタートします。再スタートするまでの時間は、セットモード(☞P55、57⑧項)で変更できます。
  - スキップ機能使用時は、「SKIP」を表示します。

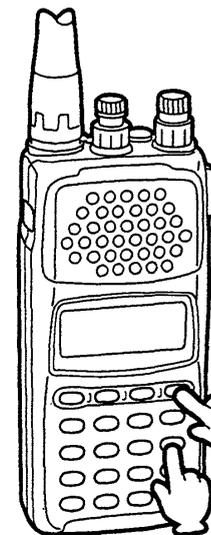
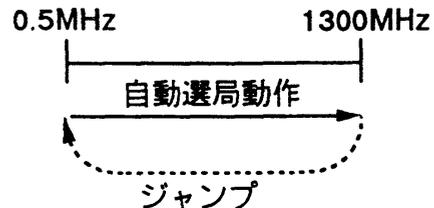
#### 2.自動選局を解除する

- ②聞きたい信号が見つかったら **(SCAN)** または **(CLR)** を押し、自動選局を解除します。



自動選局中は点滅する

#### ■フルスキャンの動作



または

## 8-4 プログラムスキャンによる自動選局のしかた

工場出荷時のプログラムスキャンは、すべてのプログラムチャンネル「00～19」にスタート周波数「144.0000MHz」、エンド周波数「146.0000MHz」を記憶しているため、「144.0000～146.0000MHz」の間を自動選局します。

プログラムチャンネルの設定内容はお好みに合わせて、すべて変更（☞P50）できます。また、このプログラムチャンネルの設定内容は「オートメモリーライトスキャンによる自動選局のしかた（☞P38）」でも使用します。

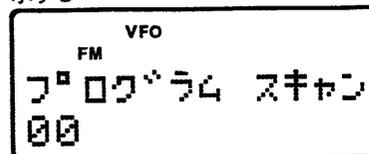
- 自動選局をする前に、必ず「自動選局をする前に（☞P34）」の事項をご確認ください。
- スキップ機能使用時（☞P47）は、メモリーバンク「R」に登録したメモリーチャンネルの周波数を飛び越えて自動選局します。

### 1. プログラムスキャン機能表示を選ぶ

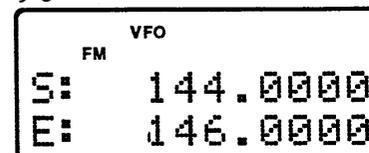
- ① VFOモードで、**FUNC** を押しながら **4** (PROG-S) を押し、プログラムスキャン機能表示を選びます。
  - 「プログラムスキャン」とプログラムチャンネル番号を約2秒間表示し、スキャン範囲のスタート周波数「S」とエンド周波数「E」を表示します。



プログラムチャンネル番号を約2秒表示する

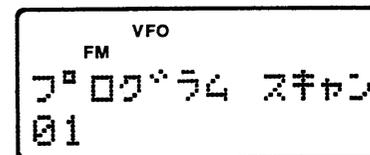
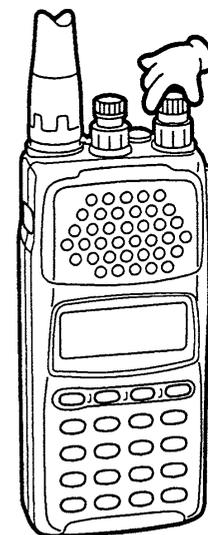


スタート周波数とエンド周波数を表示する



### 2. 自動選局したいプログラムCHを選ぶ

- ② **DIAL** を回し、自動選局したいプログラムチャンネル「00～19」を選びます。

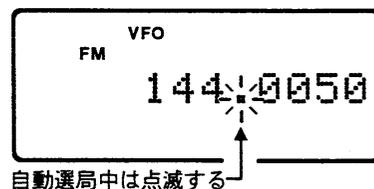
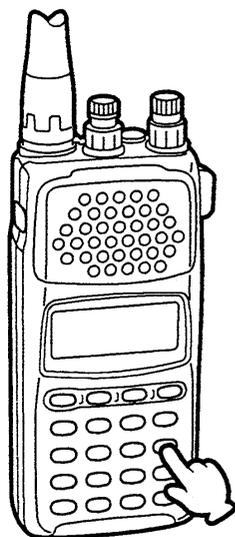


## 8 スキャンによる自動選局のしかた

### 8-4 プログラムスキャンによる自動選局のしかた(つづき)

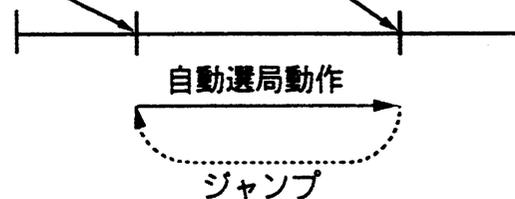
#### 3.自動選局を開始する

- ③ **SCAN** を押すと、プログラムスキャンによる自動選局がスタートします。
- 自動選局時、周波数表示のMHzケタ用小数点が点滅します。
  - 信号を受信すると約5秒間その周波数で一時停止し、自動的に再スタートします。再スタートするまでの時間は、編集機能(☞P50)で変更できます。
  - スキップ機能使用時は、「SKIP」を表示します。



#### ■プログラムスキャンの動作

S: スタート周波数    E: エンド周波数



#### 4.自動選局を解除する

- ④ 聞きたい信号が見つかったら **SCAN** または **CLR** を押し、自動選局を解除します。



## 8-5 オートメモリーライトスキャンによる自動選局のしかた

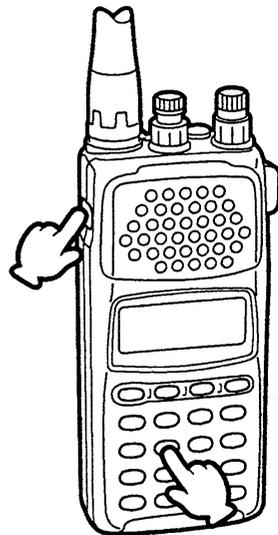
オートメモリーライトスキャン (AMWS) は、プログラムスキャン用プログラムチャンネルと共用になっていますので、工場出荷時は「144.0000~146.0000MHz」の間を自動選局します。

プログラムチャンネルの設定内容はお好みに合わせて、すべて変更 (P50) できます。

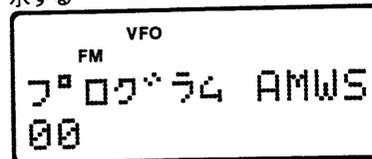
- 自動選局をする前に、必ず「自動選局をする前に (P34)」の事項をご確認ください。
- スキップ機能使用時 (P47) は、メモリーバンク「R」に登録したメモリーチャンネルの周波数を飛び越えて自動選局します。

### 1. AMWS機能表示を選ぶ

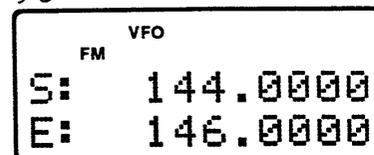
- ① VFOモードで、**FUNC** を押しながらか **5** (AMWS) を押し、オートメモリーライトスキャン機能表示を選びます。
- 「プログラムスキャン」とプログラムチャンネル番号を約2秒間表示し、スキャン範囲のスタート周波数「S」とエンド周波数「E」を表示します。



プログラムチャンネル番号を約2秒表示する

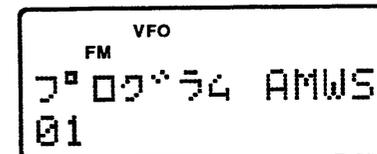
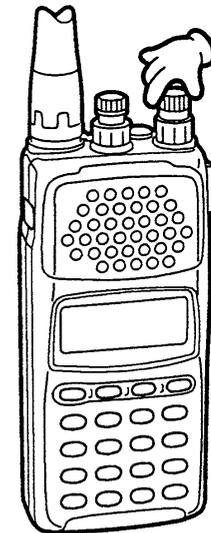


スタート周波数とエンド周波数を表示する



### 2. 自動選局したいプログラムCHを選ぶ

- ② **DIAL** を回し、自動選局したいプログラムチャンネル「00~19」を選びます。

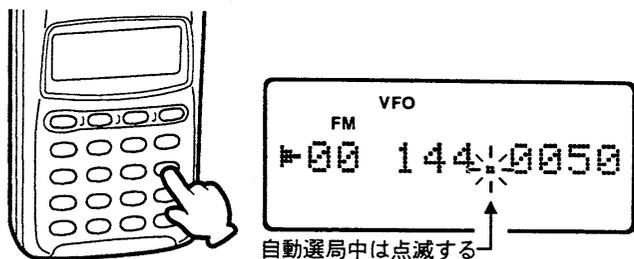


# 8 スキャンによる自動選局のしかた

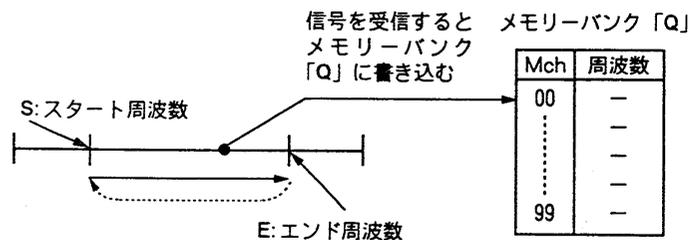
## 8-5 オートメモリーライトスキャンによる自動選局のしかた(つづき)

### 3.自動選局を開始する

- ③ **SCAN** を押すと、オートメモリーライトスキャンによる自動選局がスタートします。
- 自動選局時、周波数表示のMHzケタ用小数点が点滅します。
  - 信号を受信すると約5秒間その周波数で一時停止し、自動的に再スタートします。再スタートするまでの時間は、編集機能(☞P50)で変更できます。
  - スキップ機能使用時は、「SKIP」を表示します。



### ■オートメモリーライトスキャンの動作



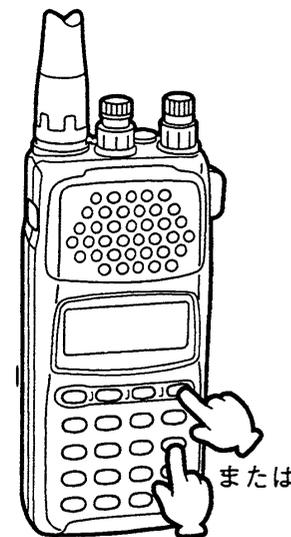
### 4.信号を受信すると

- ④メモリーバンク「Q」の、メモリーチャンネル「00~99」に自動的に書き込みます。
- メモリーチャンネルが満杯になると、自動選局を解除します。
- ⑤書き込みたくないときは、**FUNC** を押しながら **V/M** (MW) を押すとビープ音が“ピッ”と鳴り、その周波数データを書き込まないで自動選局を再スタートします。



### 5.自動選局を解除する

- ⑥書き込み終わったら **SCAN** または **CLR** を押し、自動選局を解除します。
- ⑦残しておきたい周波数データは、メモリーバンク「A~P」にメモリーコピー(☞P27)してください。
- 次回、自動選局を開始するとすべてのメモリーを消去します。



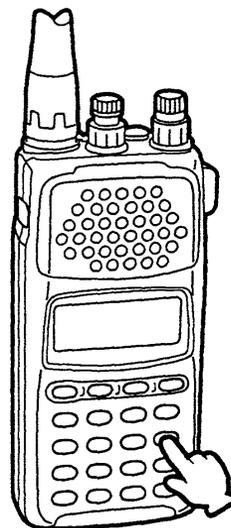
## 8-6 メモリスキャンによる自動選局のしかた

メモリスキャンは、周波数を書き込んでいるメモリーバンクとメモリーチャンネルを順次切り替えて、信号を探し出す自動選局です。

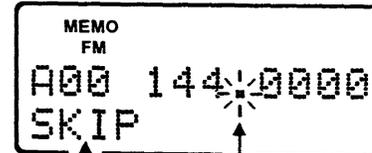
- 自動選局をする前に、必ず「自動選局をする前に (P33)」の事項をご確認ください。
- スキップ機能使用時 (P47) は、スキップチャンネルとして登録したメモリーチャンネルを飛び越えて自動選局します。

### 1. 自動選局を開始する

- ①メモリーモードで **(SCAN)** を押すと、メモリスキャンによる自動選局がスタートします。
  - 2チャンネル以上書き込んでいないと、自動選局は解除します。
  - 自動選局時、周波数表示のMHzケタ用小数点が点滅します。
  - 信号を受信すると約5秒間その周波数で一時停止し、自動的に再スタートします。再スタートするまでの時間は、セットモード (P55、57⑧項) で変更できます。
  - スキップ機能使用時は、「SKIP」を表示します。

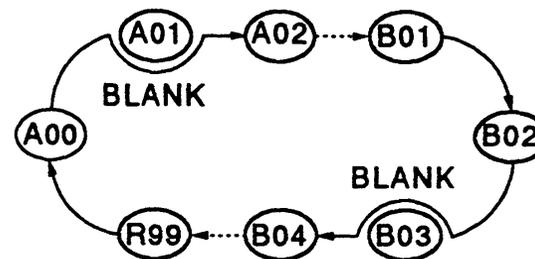


書き込んでいるメモリーチャンネルをすべて自動選局する



自動選局中は点滅するスキップ機能使用時に表示する

### ■メモリスキャンの動作



### 2. 自動選局を解除する

- ②聞きたい信号が見つかったら **(SCAN)** または **(CLR)** を押し、自動選局を解除します。



## 8 スキャンによる自動選局のしかた

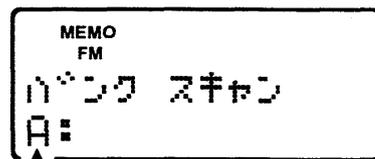
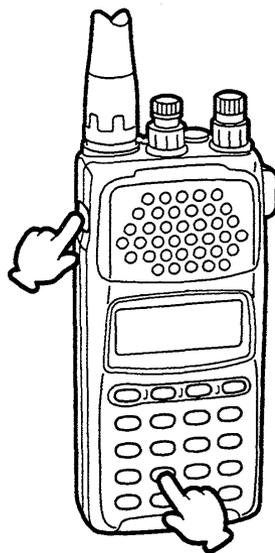
### 8-7 バンクスキャンによる自動選局のしかた

バンクスキャンは、特定のメモリーバンクに書き込んでいるメモリーチャンネルだけを順次切り替えて、信号を探し出す自動選局です。

- 自動選局をする前に、必ず「自動選局をする前に (P34)」の事項をご確認ください。
- スキップ機能使用時 (P47) は、スキップチャンネルとして登録したメモリーチャンネルを飛び越えて自動選局します。

#### 1. バンクスキャン機能表示を選ぶ

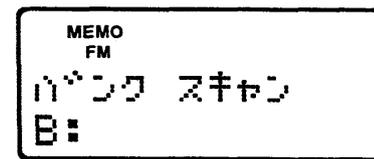
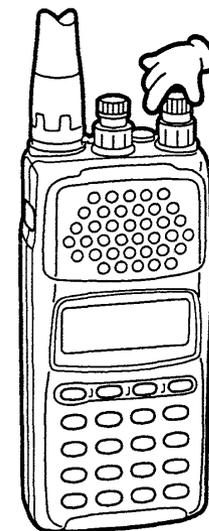
- ①メモリーモードで、**FUNC** を押しながら **B** (BANK-S) を押し、バンクスキャン機能表示を選びます。
  - 「バンクスキャン」とバンク番号を表示します。



メモリーバンク番号

#### 2. 自動選局したいメモリーバンクを選ぶ

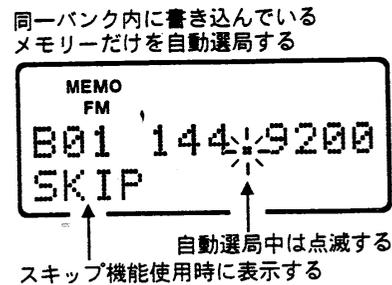
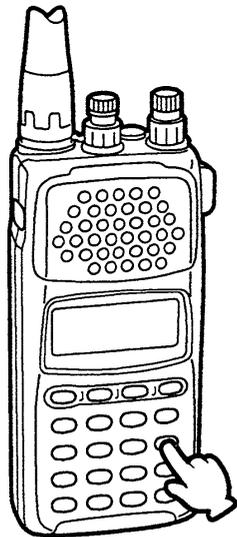
- ② **DIAL** を回し、自動選局したいメモリーバンク「A~R」を選びます。



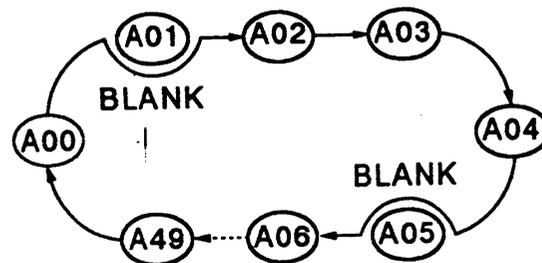
正) SCAN

### 3. 自動選局を開始する

- ③ **FUNC** を押すと、バンクスキャンによる自動選局がスタートします。
- 同一バンク内に2チャンネル以上書き込んでいないと、自動選局は解除します。
  - 自動選局時、周波数表示のMHzケタ用小数点が点滅します。
  - 信号を受信すると約5秒間その周波数で一時停止し、自動的に再スタートします。再スタートするまでの時間は、セットモード(☞P 55、57⑧項)で変更できます。
  - スキップ機能使用時は、「SKIP」を表示します。



#### ■バンクスキャンの動作



### 4. 自動選局を解除する

- ④ 聞きたい信号が見つかったら **SCAN** または **CLR** を押し、自動選局を解除します。



## 8 スキャンによる自動選局のしかた

### 8-8 モードセレクトスキャンによる自動選局のしかた

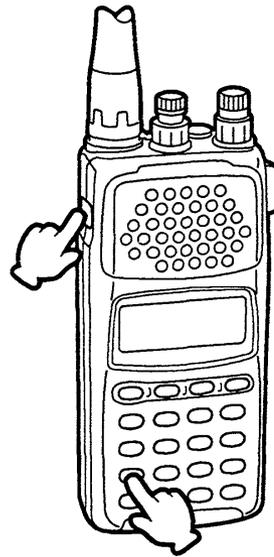
モードセレクトスキャンは、特定の受信モードで書き込んでいるメモリーチャンネルだけを順次切り替えて、信号を探し出す自動選局です。

- 自動選局をする前に、必ず「自動選局をする前に (P34)」の事項をご確認ください。
- スキップ機能使用時 (P47) は、スキップチャンネルとして登録したメモリーチャンネルを飛び越えて自動選局します。

#### 1. モードセレクトスキャン機能表示を選ぶ

①メモリーモードで、**(FUNC)** を押しながら **(7)** (MODE-S) を押し、モードセレクトスキャン機能表示を選びます。

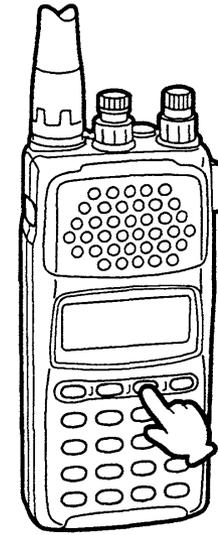
- 「モードセレクトスキャン」を表示します。



MEMO  
FM  
モードセレクトスキャン

#### 2. 自動選局したい受信モードを選ぶ

② **(MODE)** を押し、自動選局したい受信モードを選びます。

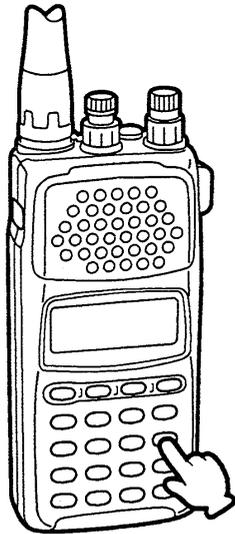


受信モードが切り替わる

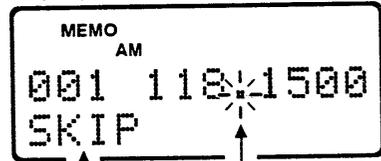
MEMO  
AM  
モードセレクトスキャン

### 3.自動選局を開始する

- ③ **SCAN** を押すと、モードセレクトスキャンによる自動選局がスタートします。
- 指定した受信モードを2チャンネル以上書き込んでいないと、自動選局は解除します。
  - 自動選局時、周波数表示のMHzケタ用小数点が点滅します。
  - 信号を受信すると約5秒間その周波数で一時停止し、自動的に再スタートします。再スタートするまでの時間は、セットモード(☞P 55、57 ⑧項)で変更できます。
  - スキップ機能使用時は、「SKIP」を表示します。

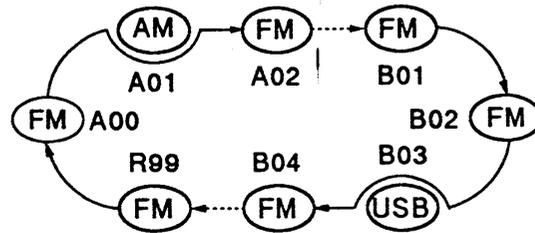


指定モードで書き込んでいるメモリーだけを自動選局する



自動選局中は点滅する  
スキップ機能使用時に表示する

#### ■モードセレクトスキャンの動作



### 4.自動選局を解除する

- ④ 聞きたい信号が見つかったら **SCAN** または **CLR** を押し、自動選局を解除します。



## 8 スキャンによる自動選局のしかた

### 8-9 プライオリティワッチ機能について

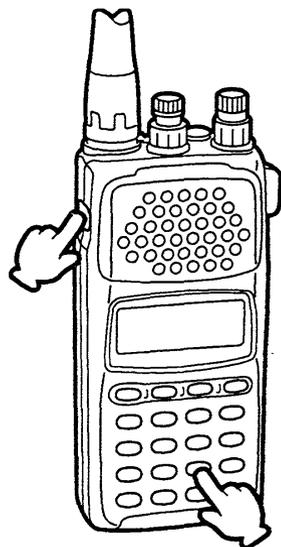
特定の周波数を聞き逃したくない場合は、その周波数をプライオリティチャンネルに書き込んでおくと、他の周波数を受信しながらプライオリティチャンネルをワッチ(監視)し、信号の有無を常に把握できます。

この機能は、VFOモードに設定している周波数(VFO周波数)、またはメモリーチャンネルに書き込んでいる周波数(メモリー周波数)のほか、各種スキャンをしながらプライオリティワッチ機能を使用できます。

- プライオリティワッチをする前に、必ず「自動選局をする前に(P34)」の事項をご確認ください。

#### 1. プライオリティワッチを開始する

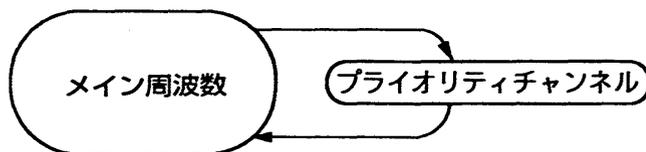
- ①すでに書き込んでいるプライオリティチャンネルをプライオリティワッチするときは、VFOモードまたはメモリーモードで(FUNC)を押しながら(9)(PRIO)を短く押します。
- 工場出荷時、プライオリティチャンネルは「144.0000 MHz」を書き込んでいます。



VFO  
FM  
プライオリティ  
144.0000

#### ■ プライオリティワッチ機能の動作

約5秒に1回プライオリティチャンネルを監視する



#### 2. メイン周波数の設定

- ②上段に表示のメイン周波数(VFO周波数またはメモリー周波数)を設定します。
- ③各種スキャンを併用するときは、それぞれのスキャンによる自動選局(P35~43)を操作してください。
- メイン周波数を受信しながら、約5秒に1回プライオリティチャンネル(下段に表示)を受信します。

小数点で受信中の周波数を表す

VFO  
WFM  
80.2000  
144 0000

5秒に1回下段の  
プライオリティ  
チャンネルを受  
信する

VFO  
FM  
80 2000  
144.0000

### 3. 信号を受信する

- ④ プライオリティチャンネルで信号を受信すると「プライオリティ」を表示し、約5秒間プライオリティチャンネルで一時的に停止し、自動的に再ワッチします。
- 再ワッチするまでの時間は、変更できません。

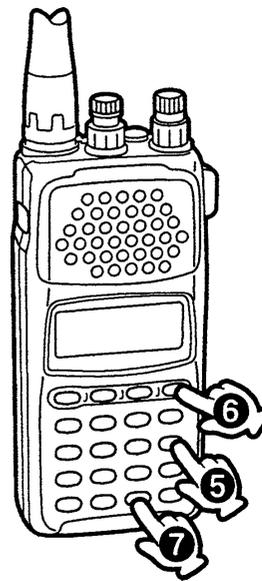
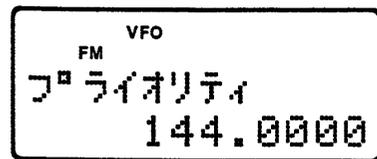
### 4. プライオリティワッチの解除

- ⑤ 各種スキャンを併用時、**SCAN**を押すとスキャンによる自動選局だけを解除してプライオリティワッチを続けます。
- ⑥ プライオリティワッチを解除し、VFO周波数（上段に表示）の受信に戻りたいときは**CLR**を押してください。
- ⑦ プライオリティチャンネル（下段に表示）を受信しているときに**ENT**を押すと、その周波数をVFO周波数にできます。

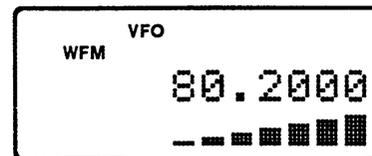
### ■ プライオリティチャンネルの変更方法

プライオリティチャンネルを変更してプライオリティワッチをするときは、「1. プライオリティワッチを開始する（前ページ）」の代わりに次の操作をしてください。

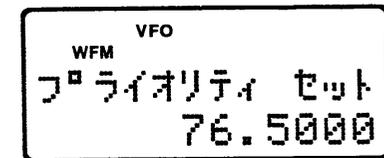
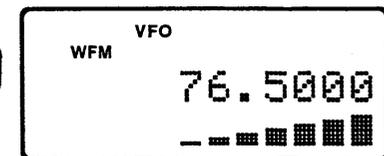
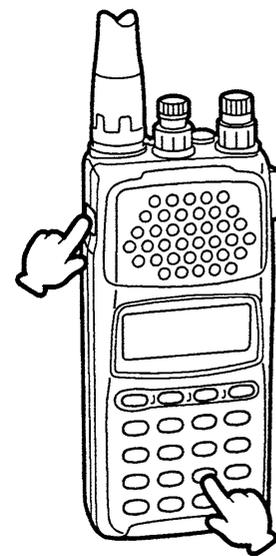
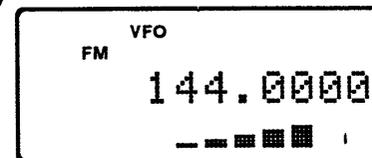
- VFOモードまたはメモリーモードで周波数を変更し、**FUNC**を押しながら**9**(PRIO)を長く押します。



CLRキーを押したとき



ENTキーを押したとき



## 8 スキャンによる自動選局のしかた

### 8-10 スキップ機能について

#### ■スキップ機能の種類と動作について

スキップ機能には、次の2種類があります。

##### ①プログラムスキップ機能

VFOモード系のスキャン(フルスキャンまたはプログラムスキャン、オートメモリーライトスキャン)による自動選局で使用する

##### ②メモリースキップ機能

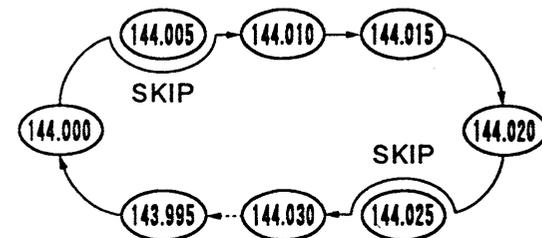
メモリーモード系のスキャン(メモリースキャンまたはバンクスキャン、モードセレクトスキャン)による自動選局で使用する

この機能は、セットモードの「プログラムスキップ」または「メモリースキップ」の設定(P55、57⑤と⑥項)が“ON”の場合だけ有効になるので、操作する前に確認してください。

なお、工場出荷時のプログラムスキップ機能は“OFF”、メモリースキップ機能は“ON”に設定しています。

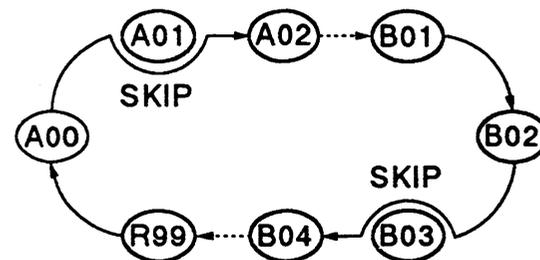
##### ●プログラムスキップ機能の動作

VFOモード系のスキャンによる自動選局中に、自動選局の対象からはずしたい周波数をスキップ周波数として登録(SKIP:ON)すると、スキャンによる自動選局操作時にその周波数を飛び越えて自動選局します。



##### ●メモリースキップ機能の動作

メモリーモード系のスキャンによる自動選局中に、自動選局の対象からはずしたいメモリーチャンネルをスキップチャンネルとして登録(SKIP:ON)すると、スキャンによる自動選局操作時にそのチャンネルを飛び越えて自動選局します。



## ④スキップ周波数の登録方法

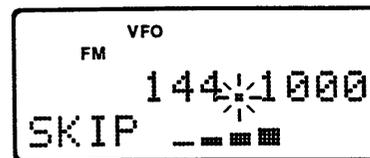
メモリスキップ機能のスキップチャンネルの登録方法は、「メモリーチャンネルの編集(☞P28)」にしたがって、「スキップ セット」のセット項目を“ON”に指定します。

## 1.スキップ周波数を登録する

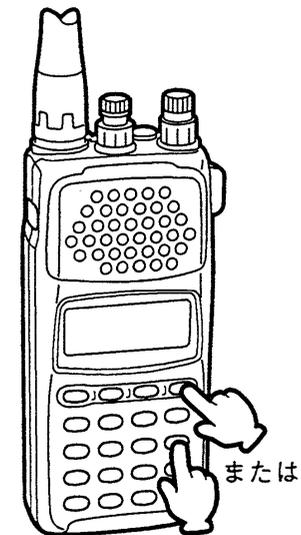
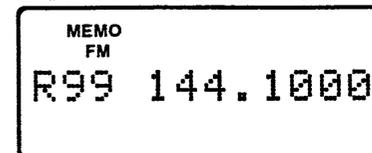
- ①セットモードのプログラムスキップ機能を“ON”にしていること(☞P55、57⑤項)を確認し、VFOモードでフルスキャンまたはプログラムスキャンによる自動選局を開始します。
- ②信号を受信して自動選局が一時停止したときに、その周波数を自動選局の対象からはずしたい場合は、**(FUNC)** を押しながら“ピッ”と鳴るまで **(V/M)** (MW) を長く押します。
  - メモリーバンク「R」の末尾チャンネル「99」から順番に書き込みます。
  - メモリーチャンネルが満杯になると、自動選局を解除します。
  - 登録したスキップ周波数を取り消すときは、「メモリーチャンネルの編集(☞P28)」にしたがって、スキップ機能の指定を“OFF”にしてください。

## 2.自動選局を解除する

- ③スキップ周波数を登録し終わったら **(SCAN)** または **(CLR)** を押し、自動選局を解除します。
- 次回からVFOモード系のスキャンによる自動選局を開始すると、登録したスキップ周波数を飛び越えて自動選局します。



メモリーバンク「R」を呼び出すと、書き込まれていることが確認できる

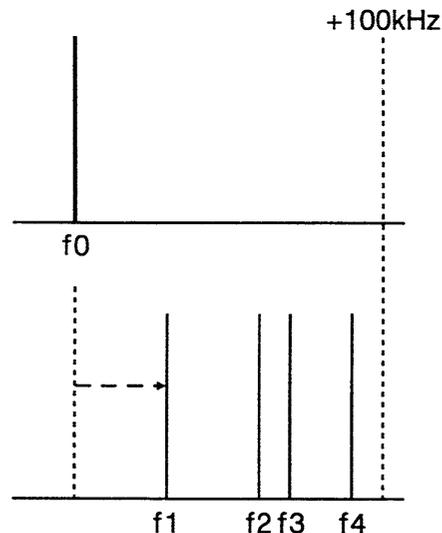


## 8 スキャンによる自動選局のしかた

### 8-11 シグナビ機能について

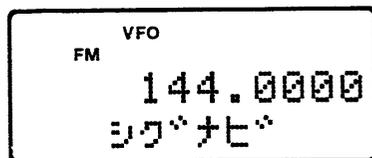
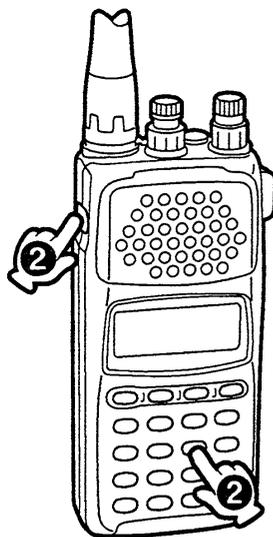
FMモードで自動選局中に、信号(f0)を探して一時停止すると、その信号を受信しながら100kHz先までに信号が無いかを探し、スキャン再スタートと同時に、あらかじめ探しておいた周波数(f1)を瞬時に表示する機能です。この動作を繰り返し、f2、f3、f4をつぎつぎに表示します。

#### ●シグナビ機能の動作



#### 1.シグナビ機能を設定する

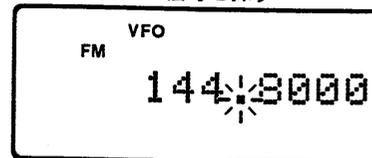
- ①VFOモードで受信モードをFM、チューニングステップを30kHz未満にしていることを確認します。
- ② **FUNC** を押しながら **6** (SIGNAVI) を押し、シグナビ機能を設定します。
  - シグナビ機能設定時は、「シグナビ」を表示します。



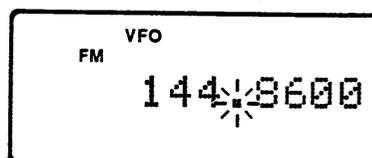
#### 2.自動選局を開始する

- ③フルスキャンまたはプログラムスキャン、オートメモリーライトスキャンによる自動選局を開始します。
  - スキップ機能も併用できます。
  - チューニングステップを30kHz以上に設定しているときは、シグナビ機能だけを自動解除します。

信号を受信して一時停止すると、シグナビ機能で次の信号を探す

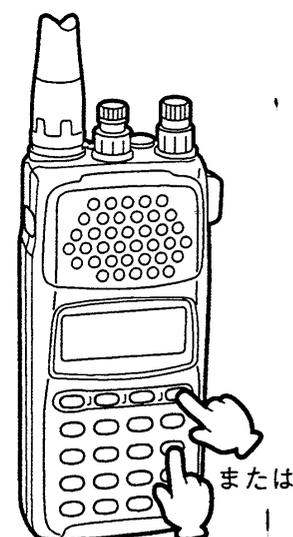


↓  
100kHz以内に信号が出ていれば再スタート時、瞬時に表示する



#### 3.自動選局を解除する

- ④ **SCAN** または **CLR** を押し、自動選局を解除します。

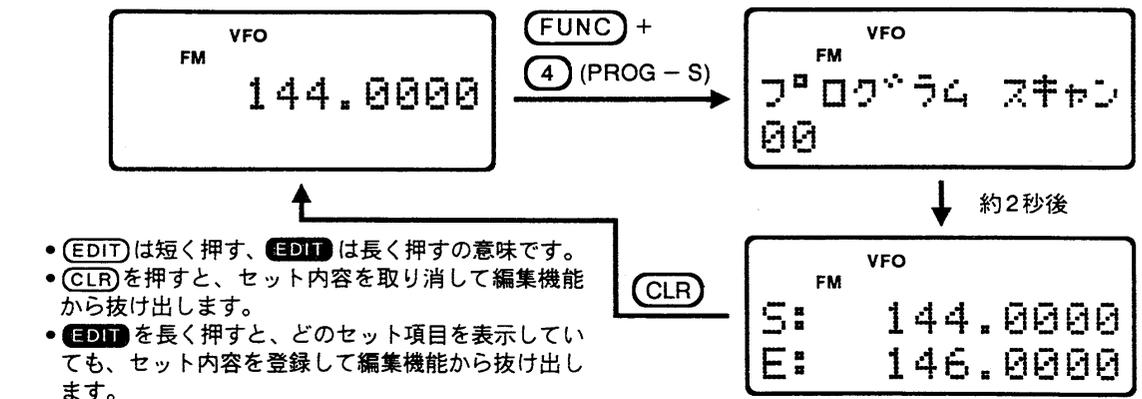


### 8-12 プログラムチャンネルの編集

プログラムチャンネル(またはEASYモードのプログラムバンド)に書き込んでいる下記の内容を簡単に編集できます。

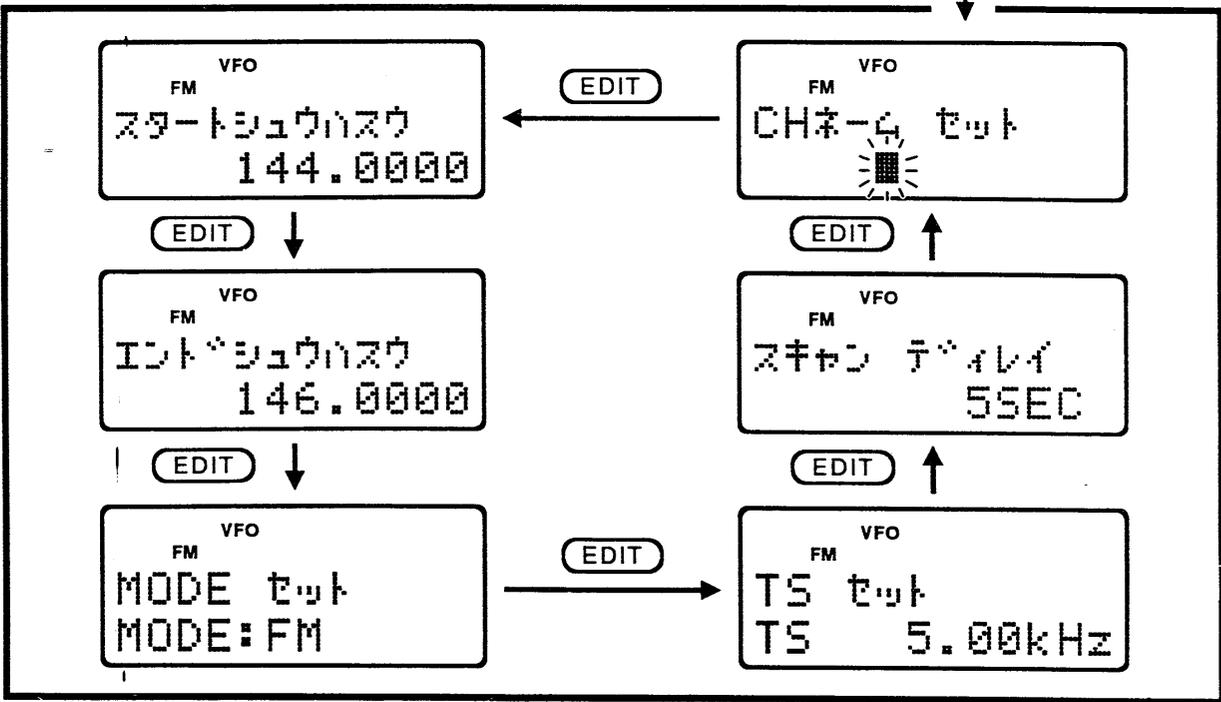
- CHネーム セット  
プログラムチャンネル(またはプログラムバンド)のネームを設定(アルファベット、カナ、数字を8文字入力可能)できます。
- スタートシュウハスウ  
自動選局のスタート周波数を変更できます。
- エンドシュウハスウ  
自動選局のエンド周波数を変更できます。
- MODE セット  
受信モードを変更できます。
- TS セット  
チューニングステップを変更できます。
- スキャン ディレイ  
自動選局が一時停止してから再スタートするまでの時間を変更できます。

● VFOモードでのセット項目の流れ



- **EDIT** は短く押す、**EDIT** は長く押すの意味です。
- **CLR** を押すと、セット内容を取り消して編集機能から抜け出します。
- **EDIT** を長く押すと、どのセット項目を表示していても、セット内容を登録して編集機能から抜け出します。

編集機能セット項目表示



## 8 スキャンによる自動選局のしかた

### 8-12 プログラムチャンネルの編集(つづき)

プログラムチャンネル(またはEASYモードのプログラムバンド)に書き込んでいる下記の6項目を変更できます。

ここでは、VFOモードのプログラムスキャン用プログラムチャンネルの編集をしてみます。

EASYモードを編集するときも、編集機能表示にするまでの操作が異なるだけで、その後の操作方法はすべて同じです。

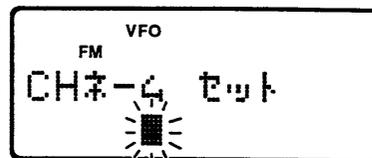
《例》プログラムチャンネルの「01」に、下記の項目内容を変更します。

- チャンネルネーム : 1.2 アマチュア
- スタート周波数 : 1260.0000MHz
- エンド周波数 : 1300.0000MHz
- 受信モード : FM
- チューニングステップ : 20.00kHz
- スキャンディレイ : 10SEC

※スキャンディレイについての詳細は、57ページをご覧ください。

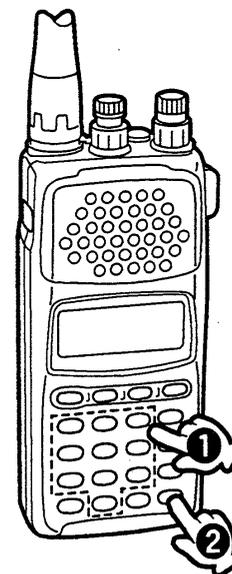
#### 1.VFOモードを編集する場合

- ① VFOモードで、**FUNC**を押しながら**4**(PROG-S) [または**5**(AMWS)] を押し、プログラムスキャン機能表示にします。
- ② **DIAL** を回し、変更したいプログラムチャンネル「01」を選びます。
- ③ **EDIT** を押して編集機能に入ります。  
● 次ページに進んでください。

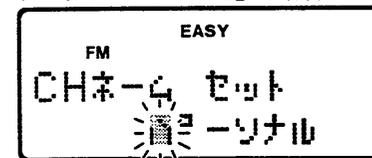


#### ■EASYモードを編集する場合

- ① EASYモードで、変更したいプログラムバンドの数字キー(**0**~**9**)を押します。
- ② **EDIT** を押して編集機能に入ります。  
● 次ページに進んでください。



プログラムバンド「0」の場合



## 8 スキャンによる自動選局のしかた

### 8-12 プログラムチャンネルの編集(つづき)

#### 3.周波数のセット項目を選んで周波数を入力する

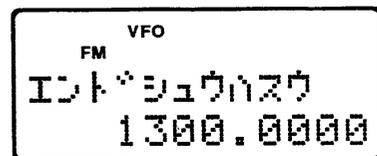
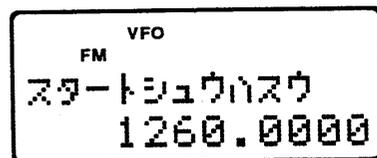
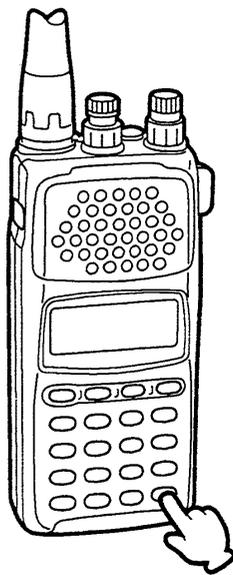
- ⑤ **EDIT** を短く押し、「スタートシュウハスウ」または「エンドシュウハスウ」のセット項目を選びます。
- ⑥ 操作例にしたがって、それぞれの周波数をキー入力します。
- セット項目ごとに、⑤と⑥の操作を繰り返します。

《例》スタート周波数を「1260.0000MHz」にする場合

1 2 6 0 **ENT** と押す

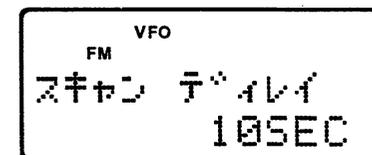
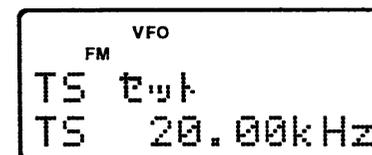
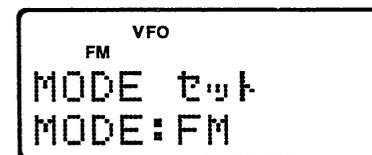
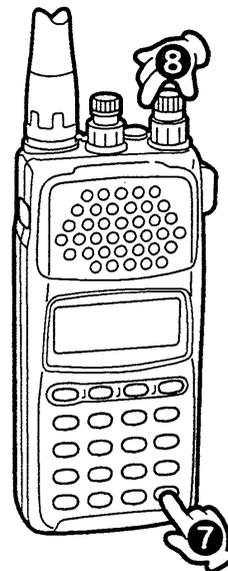
エンド周波数を「1300.0000MHz」にする場合

1 3 0 0 **ENT** と押す



#### 4.MODE/TS/スキャンディレイのセット項目を設定する

- ⑦ **EDIT** を短く押し、「MODE セット」または「TS セット」、「スキャン ディレイ」のセット項目を選びます。
- ⑧ **DIAL** を回して設定値を選びます。
- セット項目ごとに、⑦と⑧の操作を繰り返します。



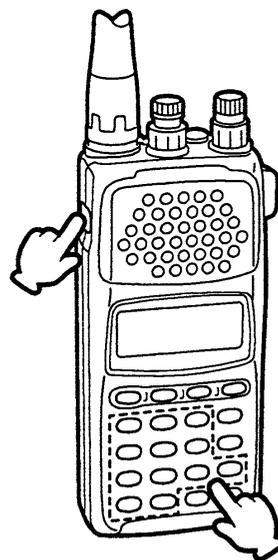
\*スキャンディレイについての詳細は、57ページをご覧ください。

## 2. ネームの文字を入れる

- ④操作例にしたがってキー入力します。
- **(DIAL)** 使用時またはキー入力時の文字列が同じ場合は、選んだ文字を **(ENT)** で確定します。
  - 入力できる文字は、68ページの一覧表をご覧ください。
  - キーボードでカナ入力するときは、**(FUNC)** を押しながら **(EASY)** (カナ) を押し、カナ表示を点灯させます。
  - 英数入力に戻すときも、同じ操作をしてください。

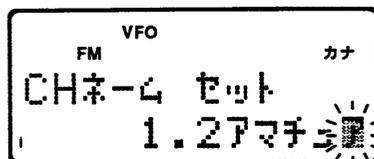
《例》「1.2アマチュア」を入力する場合

キ ー 操 作	表 示	入力モード
<b>(1)</b> を3回押す	1	英数入力
<b>(.)</b> を2回押す	1.	英数入力
<b>(2)</b> を4回押す	1.2	英数入力
<b>(FUNC)</b> + <b>(EASY)</b> (カナ) を押す	カナ表示点灯	カナ入力
<b>(1)</b> を1回押す	1.2ア	カナ入力
<b>(7)</b> を1回押す	1.2アマ	カナ入力
<b>(4)</b> を2回押す	1.2アマチ	カナ入力
<b>(FUNC)</b> + <b>(8)</b> を2回押す	1.2アマチュ	カナ入力
<b>(1)</b> を1回押す	1.2アマチュア	カナ入力



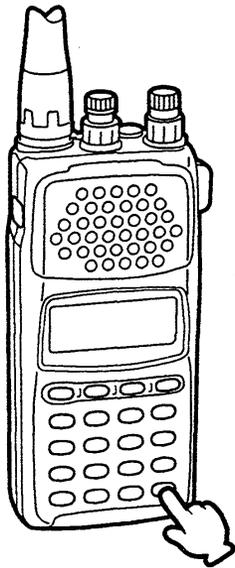
### ■ まちがったときは

- 登録後に、まちがいに気づいたときは、はじめから操作しなおしてください。
- 登録前に、まちがいに気づいたときは、**(ENT)** を何回か押してカーソルを変更する文字に合わせ、もう一度キー入力してください。
- 登録前に **(CLR)** を押すと、入力した文字がすべて消え、カーソル表示になります。もう一度キー入力してください。



5. 設定内容を確認して登録する

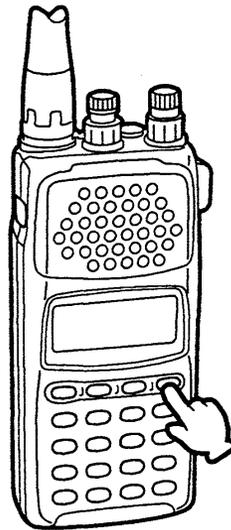
- ⑨ **EDIT** を何回か短く押して設定内容を確認し、ピープ音が“ピッピピ”と鳴るまで **EDIT** を長く押します。
- まちがっているときは、もう一度設定しなおしてください。



VFO  
FM  
S: 1260.0000  
E: 1300.0000

6. VFOモード設定時は

- ⑩ VFOモード設定時だけ **CLR** を押し、周波数表示に戻します。



VFO  
FM  
144.0000

# 9 セットモードについて

## 9-1 セットモードの設定方法

セットモードは、運用中にときどき変更する項目をまとめたモードです。

セットできる項目は、下記の12項目です。

- ①オープニングメッセージの設定
- ②ビーブ音の設定
- ③ディスプレイ用コントラストの設定
- ④ディスプレイ/キーボード用バックライトの設定
- ⑤プログラムスキップ機能の設定
- ⑥メモリースキップ機能の設定
- ⑦パワーセーブの設定
- ⑧スキャンディレイの設定
- ⑨ガイド表示の言語設定
- ⑩CI-Vのアドレス設定
- ⑪CI-Vのボーレート設定
- ⑫CI-Vのトランシーブ設定

各項目で変更できる運用条件を次のページから記載しているので、このページと併せてご覧ください。

### 1. セットモードにする

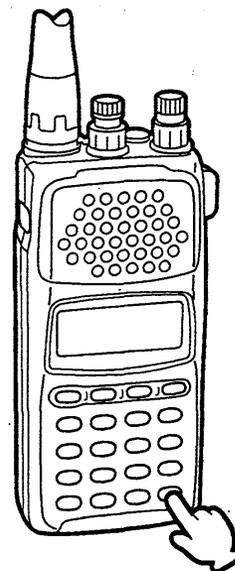
**FUNC** を押しながらか  
**CLR** (SET) を押し  
ます。



メッセージ ON

### 2. セット項目を選ぶ

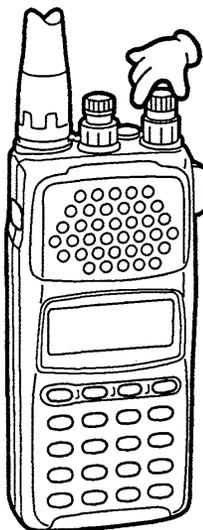
**EDIT** を押します。



BEEP ON

### 3. 運用条件を選ぶ

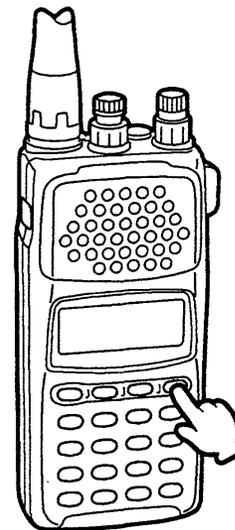
**DIAL** を回します。  
● 項目別詳細の説明中、  
●印は初期設定値を  
表します。



BEEP OFF

### 4. 周波数表示に戻す

**CLR** を押します。



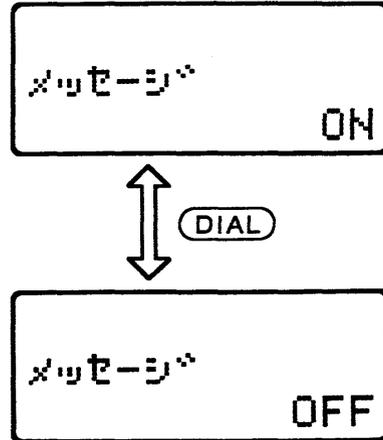
FM VFO  
144.0000

9-2 セットモードの項目別詳細

① オープニングメッセージの設定

電源“ON”時に表示するメッセージを、表示しないように変更できます。

- ON = メッセージを表示する
- OFF = メッセージを表示しないで、直接受信周波数を表示する

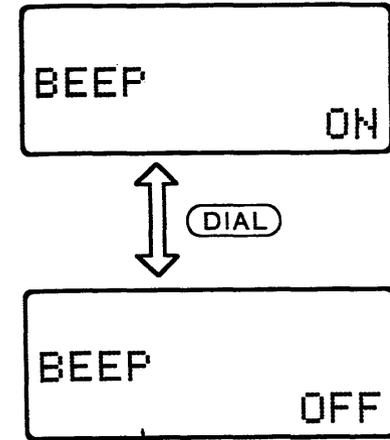


② ビープ音の設定

キー操作が正しく行われたかどうかを知らせるビープ音を、鳴らないようにする機能です。

- ON = ビープ音は鳴る
- OFF = ビープ音は鳴らない

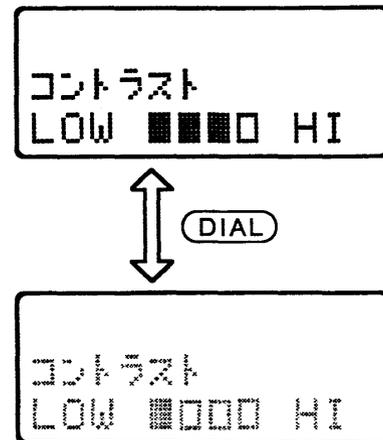
\*“OFF”にすると、減電圧表示機能(☞P60)のビープ音も鳴りません。



③ ディスプレイ用コントラストの設定

ディスプレイは、周囲の明るさによって見やすさが変わります。

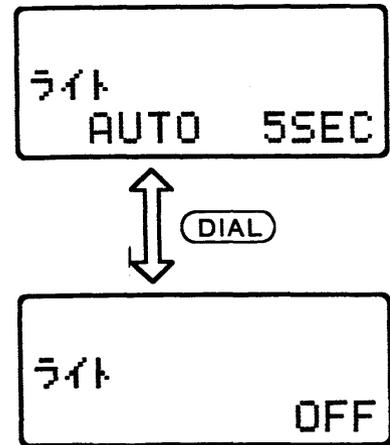
- LOWからHI側まで、4段階の濃淡を設定できます。



④ ディスプレイ/キーボード用バックライトの設定

工場出荷時のバックライトは、SQL/VOLツマミ以外の操作をすると、自動的に約5秒間点灯します。

- OFF = 常時消灯
- AUTO 5SEC = 操作後約5秒間点灯
- ON = 常時点灯



## 9 セットモードについて

### 9-2 セットモードの項目別詳細(つづき)

#### ⑤ プログラムスキップ機能の設定

プログラムスキップ機能(☞P47)を“ON/OFF”します。

- ON = VFOモード系スキャンのスキップ機能が動作する
- OFF = スキップ機能とスキップ周波数の登録は無効になる

プログラムスキップ  
OFF



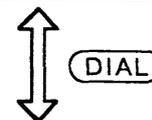
プログラムスキップ  
ON

#### ⑥ メモリースキップ機能の設定

メモリースキップ機能(☞P47)を“ON/OFF”します。

- ON = メモリーモード系スキャンのスキップ機能が動作する
- OFF = スキップ機能は動作しない

メモリースキップ  
ON



メモリースキップ  
OFF

#### ⑦ パワーセーブ比の設定

電池の消費を節約するための機能で、待ち受け状態が一定時間続くと、受信部を休止状態にする時間の比率を設定します。

- OFF = この機能は、動作しない
- 1:4 = 125ミリ秒(待ち受け) 500ミリ秒(休止)
- 1:16 = 125ミリ秒(待ち受け) 2秒(休止)

パワーセーブ  
1:4



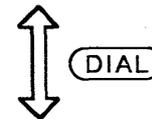
パワーセーブ  
OFF

#### ⑧ スキャンディレイの設定

スキャン中、信号を受信して一時停止したときから再スタートするまでの時間を設定します。

- 5SEC = 5秒後に再スタート
- 10SEC = 10秒後に再スタート
- PAUSE(ポーズ) = 信号が消えるまで受信し、2秒後に再スタート

スキャン ディレイ  
5SEC

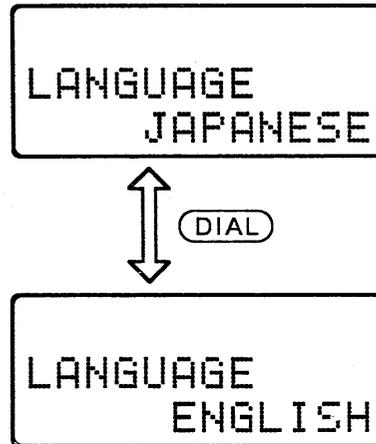


スキャン ディレイ  
PAUSE

### ⑨ガイド表示の言語設定

操作中に表示するガイド表示を、日本語または英語で表示するかを設定します。

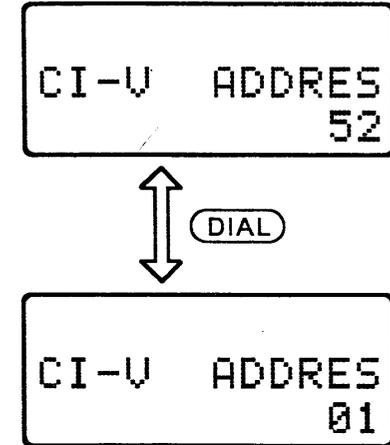
- JAPANESE  
=日本語で表示する
- ENGLISH  
=英語で表示する



### ⑩CI-Vのアドレス設定

CI-Vシステム(☞P63)を利用し、本機を外部コントロールするときのアドレスを設定します。

- 01~〈52〉~7F  
: 初期設定値の〈52〉は、本機のアドレスです。

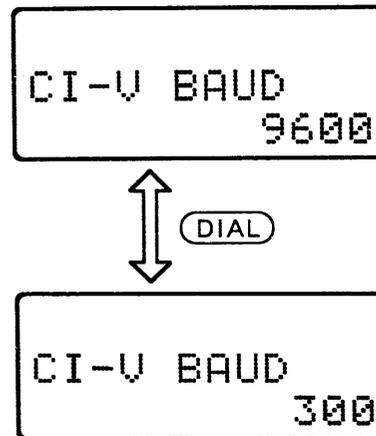


### ⑪CI-Vのボーレート設定

CI-Vシステム(☞P63)を利用し、本機を外部コントロールするときのボーレートを設定します。

- 300/1200/4800/〈9600〉/19200bps  
: 初期設定値は、9600bpsです。

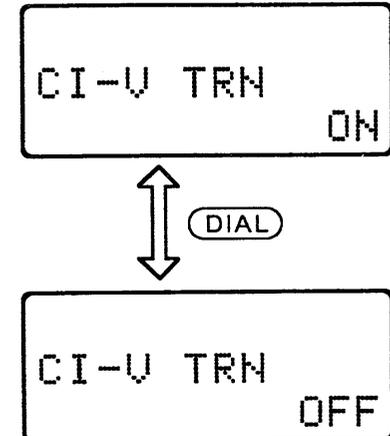
※CI-Vは1200bps以下での使用をおすすめします。4800bps以上で使用するとデータを受け取れない場合があります。ただし、データの転送には支障ありません。



### ⑫CI-Vのトランシーブ設定

CI-Vシステム(☞P63)より、トランシーブの“ON/OFF”を設定します。

- ON = トランシーブ動作にする
- OFF = トランシーブ動作をしない



# 10 その他の便利な機能

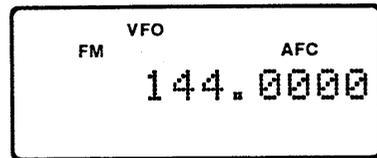
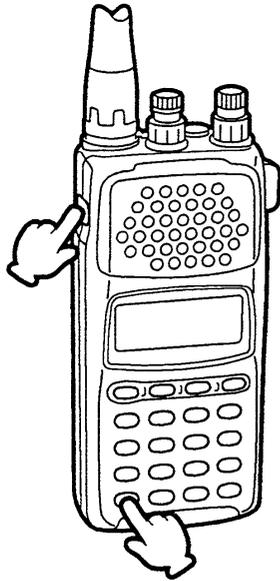
## 10-1 AFC (自動周波数制御) 機能の使いかた

FMモードで受信しているときに、送信している局の電波が変動すると、音声がひずんだり、雑音が入る場合があります。

このような場合に、AFC機能を使用すると、受信信号の周波数変動に自動追従し、常に安定した信号を受信できます。

この機能は、FM以外の受信モードでは動作しません。

- ①受信信号が周波数変動を起こしたら、**(FUNC)** を押しながら **(.)** (AFC) を押し、AFC機能を入れます。
  - AFC機能設定時は、AFC表示が点灯します。
  - AFC機能を解除するときも、同じ操作をしてください。
- ②変動した信号に合わせて、1kHzステップで自動的に同調をとります。



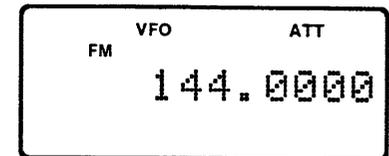
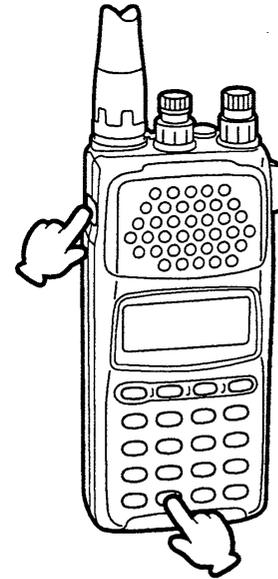
## 10-2 ATT (アッテネーター) 機能の使いかた

非常に強力な信号 (放送局の電波、ポケットベル、近所の無線局による電波など) を受信すると、受信音がひずんで聞きにくくなります。

このような現象を解消するのがATT機能です。

この機能は、すべての受信モードで動作します。

- ①強力な信号を受信したら、**(FUNC)** を押しながら **(0)** (ATT) を押し、ATT機能を入れます。
  - ATT機能設定時は、ATT表示が点灯します。
  - ATT機能を解除するときも、同じ操作をしてください。

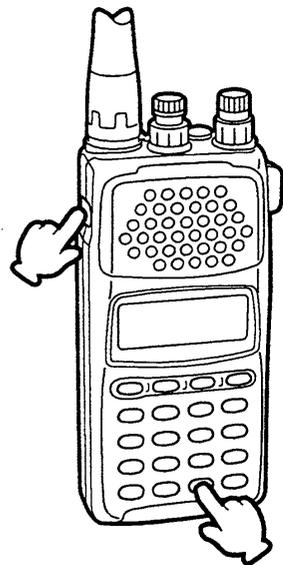


### 10-3 NB (ノイズランカー)と ANL (自動雑音制限) 機能の使いかた

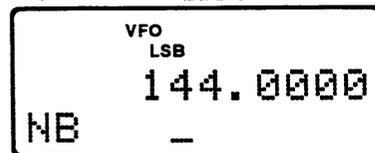
NB機能はLSB/USB/CWモードで受信しているときに、自動車のイグニッションノイズのようなパルス性ノイズが多い場合に使用します。

ANL機能はAMモードで受信しているときに、外部雑音が多い場合に一定値以上の強い雑音を制限する機能です。

- ① **FUNC** を押しながら **ENT** (NB/ANL) を押し、LSB/USB/CWモード時はNB、AMモード時はANL機能として動作します。
- NB機能設定時はNB表示、ANL機能設定時はANL表示が点灯します。
  - NBまたはANL機能を解除するときも、同じ操作をしてください。

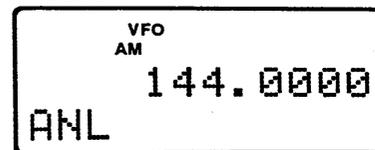


ノイズランカー設定時



P60、10-3

ANL 設定時



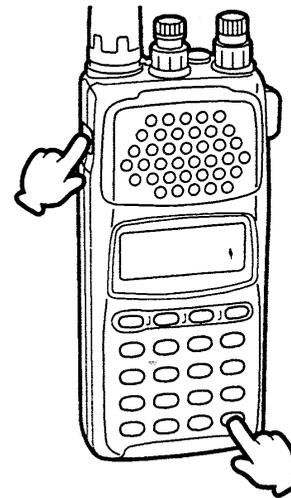
### 10-4 ロック機能の使いかた

不用意にダイヤルつまみやキーボードに触れても、周波数や運用状態が変わらないようにする機能です。

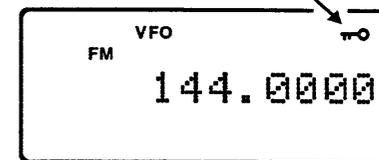
ロックしているときは、**POWER** / **MONI** / **FUNC** / **VOL** / **SQL** 以外のキーおよびつまみは機能しません。

① **FUNC** を押しながら **EDIT** (LOCK) を押しします。

- ロック機能設定時は、鍵マークを表示します。
- ロック機能を解除するときも、同じ操作をしてください。



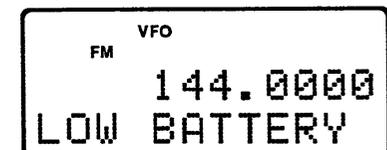
ロック機能設定時に点灯する



### 10-5 減電圧表示機能について

充電式ニカド電池の残容量が少なくなると、約10秒に1回「LOW BATTERY」を表示するとともにピープ音が鳴り、充電時期を知らせます。

- ピープ音は鳴らないように、セットモード(P55、56②項)で変更できます。



## 10 その他の便利な機能

### 10-6 スリープタイマーの使いかた

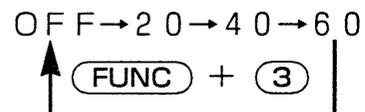
このタイマーは、電源の切り忘れをカバーするためのものです。ラジオ放送を聞きながらおやすみになるときなどに便利な機能です。

20/40/60分の指定時間になると、自動的に電源が切れます。

スリープタイマーを使用しない場合は、“OFF” にしておきます。

#### 1. タイマー時間(分)を選ぶ

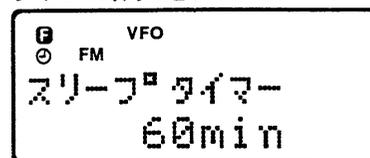
- ① **V/M** を押し、VFOまたはメモリーモードにします。
- ② **FUNC** を押しながら ③ (SLEEP) を何回か押し、タイマー時間を選びます。



- ③ **FUNC** を離すと、スリープタイマーが動作します。
- スリープタイマー動作中は、時計マークを表示します。
- スリープタイマー動作中に、スリープタイマーを解除したいときは、もう一度①～③を操作してタイマー時間を“OFF” にしてください。

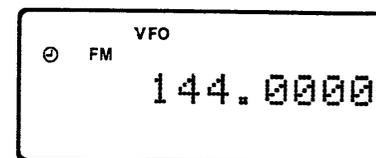


タイマー時間を選ぶ



#### 2. 指定時間になると

- ④ 指定時間をすぎると、“ピー”音が5回鳴って電源が切れます。



タイマー時間になると電源が切れる



### 10-7 工場出荷時の状態に戻す(リセット)には

まちがった操作をして設定がわからなくなったときはパーシャルリセット、メモリー内容や動作をすべてお買い上げ時の初期状態に戻したいときはオールリセットをしてください。

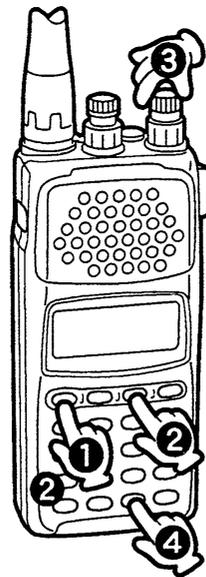
オールリセットを操作すると、すべてのデータを消去しますので、残しておきたいデータは、ノートなどに控えておくようにしてください。

リセット操作をすると、以下の内容を初期化します。

リセット	パーシャル	オール
VFOモードの表示周波数	144.0000	144.0000
プログラムチャンネルの内容	現状維持	初期化
受信モードとTSの表示	初期化	初期化
メモリーモードの表示チャンネル	A 00	A 00
メモリーチャンネルの内容	現状維持	初期化
EASYモードの表示バンド	0 :	0 :
プログラムバンドの内容	現状維持	初期化
セットモードの設定内容	初期化	初期化

#### (1)パーシャルリセットのしかた

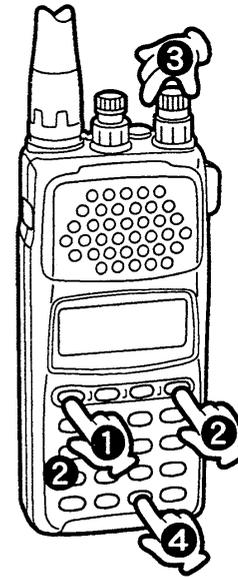
- ① **POWER** を長く押し、いったん電源を切ります。
  - ② **MODE** を押しながら **POWER** を押し、電源を入れます。
  - ③ **DIAL** を回して「YES」「NO」を選び、**ENT** を押します。
- 「YES」を選ぶとパーシャルリセットを実行し、「NO」を選ぶと以前の表示に戻ります。



パ ーシャルリセット ?  
NO

#### (2)オールリセットのしかた

- ① **POWER** を長く押し、いったん電源を切ります。
  - ② **CLR** を押しながら **POWER** を押し、電源を入れます。
  - ③ **DIAL** を回して「YES」「NO」を選び、**ENT** を押します。
- 「YES」を選ぶとオールリセットを実行し、「NO」を選ぶと以前の表示に戻りません。



オールリセット ?  
NO

# 11 別売品について

## 11-1 別売品一覧表

IC-R10の性能を余すことなく活用し、さらに充実、グレードアップしていただくために、次のような豊富な別売品を用意しています。

CP-12L	シガレットライターケーブル(車載電源用)
CT-17	CI-Vレベルコンバーターユニット
HP-4	ヘッドホン
LC-140	キャリングケース
OPC-254L	外部電源ケーブル(固定電源用)
SP-13	イヤホン

※CP-12LとOPC-254Lによる充電または外部電源の使いかたは、「充電のしかたと外部電源について(P7)」をご覧ください。

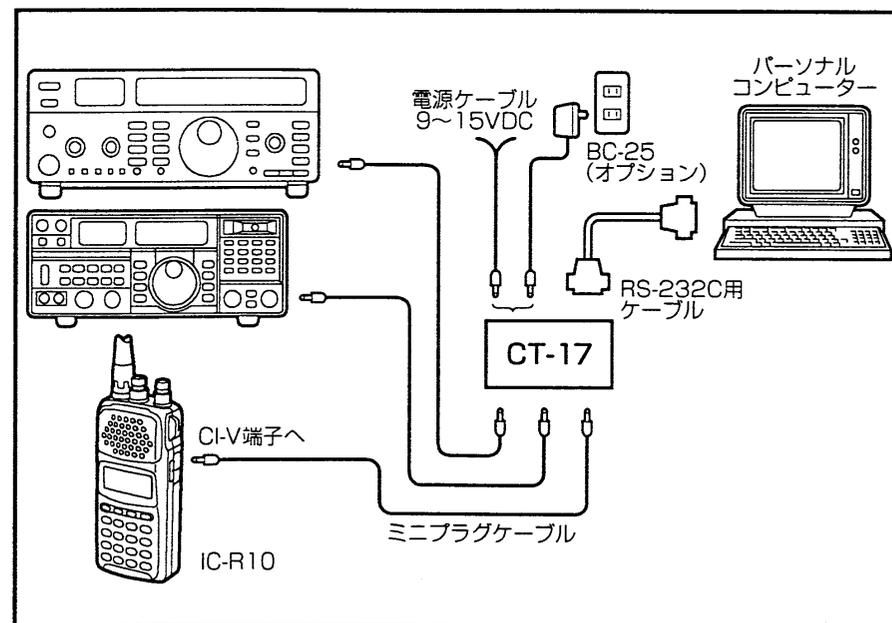
## 11-2 CI-V (リモート) ジャックについて

### ■コンピューターの接続

IC-R10にパーソナルコンピューターを接続することにより、受信周波数と受信モード、スケルチの状態、トランシーブを外部制御できます。

コントロールは、ICOM Communication Interface V (CI-V : シーアイファイブ) によるシリアル方式で行われます。

別売品のCT-17 (CI-Vレベルコンバーター)を使用することにより、RS-232Cタイプのシリアルポートを持つパーソナルコンピューターが接続でき、外部コントロールを楽しめます。パーソナルコンピューターで、アイコムのリシーバーおよびトランシーバーを制御する方法は、CT-17に添付の取扱説明書およびCI-Vシステム解説書(有料)を用意していますので、弊社各営業所サービス係にお問い合わせください。



### ■CI-Vのデータ設定について

CI-Vシステムを利用して外部コントロールするとき、本機のアドレス、ボーレート、トランシーブ“ON/OFF”のデータが必要になります。これらのデータは、セットモード(P55、58⑩~⑪項)で設定します。

■CI-Vの基本フォーマットについて

(1) コントローラー (パソコン) → レシーバー (IC-R10)

① プリアンブル				② 受信 アドレス		③ 送信 アドレス		④ コマンド		⑤ サブ コマンド		⑥ データエリア						⑦ EOM			
F	E	F	E	5	2	E	0	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	F	D

(2) レシーバー → コントローラー

① プリアンブル				② 受信 アドレス		③ 送信 アドレス		④ コマンド		⑤ サブ コマンド		⑥ データエリア						⑦ EOM			
F	E	F	E	E	0	5	2	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	F	D

■コマンド一覧表

- ①プリアンブル : データのはじめに挿入する同期用のコードで、16進の“FE”を2回送出します。
- ②受信アドレス } IC-R10の初期アドレスは“52(16進)”とし、
- ③送信アドレス } コントローラーは“E0”としたときの例を示しています。
- ④コマンド : コントロールできる機能を16進2ケタでコマンドとしています(右表参照)。
- ⑤サブコマンド : コマンド補足命令として16進2ケタを用います(右表参照)。
- ⑥データエリア : 周波数データなどをセットするエリアで、データにより可変長とします。
- ⑦EOM : メッセージの終わりを示すコードで、16進の“FD”とします。

コマンド	サブ	動作	コマンド	サブ	動作
00		周波数データの転送(トランシーブ)	06	01	USBモードの設定
01		モードデータの転送(トランシーブ)		02	AMモードの設定
03		表示周波数の読み込み		03	CWモードの設定
04		表示モードの読み込み		05	FMモードの設定
05		周波数データの設定		06	WFMモードの設定
06	00	LSBモードの設定		15	01
			02		Sメーターレベルの読み込み

# 12 ご参考に

## 12-1 故障かな？と思ったら

下表に掲げた状態は故障ではありませんので、修理に出す前にもう一度点検してください。  
それでも異常があるときは、弊社各営業所のサービス係まで、その状態を具体的にご連絡ください。

状 態	原 因	処 置	参 照
● 電源が入らない	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 電池が消耗している</li> <li>◎ 電池の極性まちがい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 充電する(乾電池のときは交換する)</li> <li>● 極性を確認して電池を入れなおす</li> </ul>	P7,5 P5
● 音が出ない	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 音量が最小になっている</li> <li>◎ イヤホンまたはヘッドホンを使用している</li> <li>◎ SQLツマミが右に回りすぎている</li> <li>◎ VSC機能が“ON”になっている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● VOLツマミを右に回す</li> <li>● イヤホンまたはヘッドホンを抜く</li> <li>● SQLツマミを左に回す</li> <li>● FUNCキーを押しながら数字の2(VSC)キーを押し、VSC機能を解除する</li> </ul>	P11 P8  P12 P12
● 感度が悪く、強力な局しか聞こえない	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ ATT機能が“ON”になっている</li> <li>◎ RFゲインで受信感度を下げすぎている(LSB/USB/CW時)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● FUNCキーを押しながら数字の0(ATT)キーを押し、ATT機能を解除する</li> <li>● SQLツマミを左に回す</li> </ul>	P59  P12
● 受信音が弱い、歪む、雑音が多いなど正常でない	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 周波数が合っていない</li> <li>◎ 受信モードが合っていない</li> <li>◎ SQLツマミが右に回りすぎている</li> <li>◎ 電池が消耗している</li> <li>◎ 電波が弱い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● DIALツマミを回して同調しなおす</li> <li>● MODEキーを押して受信モードに合わせる</li> <li>● SQLツマミを左に回す</li> <li>● 充電する(乾電池のときは交換する)</li> <li>● 建物や乗り物の中では窓際で聞く、または外部アンテナを使用する</li> </ul>	P20 P15 P12 P7,5 P6
● キーボードまたはDIALツマミで選局できない	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ ロック機能を設定している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● FUNCキーを押しながらEDIT(LOCK)キーを押し、ロック機能を解除する</li> </ul>	P60
● ニカド電池を充電できない	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ CHARGEスイッチが“OFF”になっている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● CHARGEスイッチを“ON”にする</li> </ul>	P7

状 態	原 因	処 置	参 照
● スキャンによる自動選局をしない	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ SQLツマミが左に回りすぎている</li> <li>◎ 受信モードがLSB/USB/CWになっている</li> <li>◎ スタート周波数とエンド周波数が同じである</li> <li>◎ メモリーチャンネルに1チャンネルしか書き込んでいない</li> <li>◎ 選択指定した受信モードを書き込んでいない</li> <li>◎ 操作のしかたがまちがっている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● SQLツマミを左に回す</li> <li>● 受信モードをFM/WFM/AMモードにする</li> <li>● 異なる周波数を書き込む</li> <li>● 2チャンネル以上書き込む</li> <li>● 2チャンネル以上書き込む</li> <li>● 正しく操作しなおす</li> </ul>	<p>P 34 P 34</p> <p>P 53</p> <p>P 25、40 42</p> <p>P 25、44</p> <p>P 33</p>
● メモリーチャンネルを呼び出せない	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 操作モードのまちがい</li> <li>◎ 操作のしかたがまちがっている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● V/Mキーを押してメモリーモードにする</li> <li>● 正しく操作しなおす</li> </ul>	<p>P 23 P 24</p>

## 12-2 故障のときは

### ● 保証書について

保証書は販売店で所定事項(お買い上げ日、販売店名)を記入のうえお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

### ● 修理を依頼されるとき

「故障かな?と思ったら」にしたがって、もう一度調べていただき、それでも具合の悪いときは、次の処置をしてください。

#### 保証期間中は

お買い上げの販売店にご連絡ください。  
保証規定にしたがって修理させていただきますので、保証書を添えてご依頼ください。

#### 保証期間後は

お買い上げの販売店にご連絡ください。  
修理することにより機能を維持できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

### ● アフターサービスについてわからないときは

お買い上げの販売店または弊社各営業所サービス係にお問い合わせください。

## 12 ご参考に

### 12-3 定格

周波数範囲	0.5000~252.9000MHz 255.1000~261.9000MHz 266.1000~270.9000MHz 275.1000~379.9000MHz 382.1000~411.9000MHz 415.1000~809.9000MHz 834.1000~859.9000MHz 889.1000~914.9000MHz 960.1000~1300.0000MHz	選 択 度	FM/AM : 15kHz/-6dB WFM : 150kHz/-6dB SSB/CW : 4kHz/-6dB
電 波 型 式	FM/WFM/AM/SSB/CW	電 源 電 圧	DC4.8~16V(DC4.8V標準)
アンテナインピーダンス	50Ω不平衡	接 地 方 式	マイナス接地
アンテナ端子	BNC型	消 費 電 流 ( T Y P )	受信待ち受け時 : 110mA 受信最大出力時 : 180mA パワーセーブ時 : 38mA
受 信 方 式	トリプルスーパーヘテロダイン	低 周 波 出 力	120mW以上 (DC13.5V/8Ω/10%歪率/FMモード時)
中間周波数	第1 : 266.7MHz ; 429.1MHz/ 第2 : 10.7MHz/第3 : 455 kHz	低周波負荷インピーダンス	8Ω
受 信 感 度 ( T Y P )		外形寸法 (突起物を除く)	58.5 (W) × 130 (H) × 31.3 (D) mm
		重 量	約310g
		使 用 温 度 範 囲	-10~+50°C

周波数範囲 (MHz)	FM (12dB SINAD)	WFM (12dB SINAD)	AM (10dB S/N)	SSB/CW (10dB S/N)
0.5~ 4.9999	- 6 dB $\mu$	保証外	4 dB $\mu$	- 8 dB $\mu$
5.0~ 199.9999	- 10 dB $\mu$	0 dB $\mu$ *1	0 dB $\mu$	- 12 dB $\mu$
200.0~ 399.9999	- 7 dB $\mu$	7 dB $\mu$	4 dB $\mu$	- 8 dB $\mu$
340.0~ 699.9999	- 9 dB $\mu$	2 dB $\mu$	3 dB $\mu$	- 10 dB $\mu$
700.0~ 799.9999	- 2 dB $\mu$	6 dB $\mu$	6 dB $\mu$	- 4 dB $\mu$
800.0~1300.0000	- 6 dB $\mu$	4 dB $\mu$ *2	4 dB $\mu$	- 8 dB $\mu$

\*1: 75~199.9999MHzの範囲内  
\*2: 800~899.9999MHzの範囲内

※測定値は、JAIA(日本アマチュア無線機器工業会)で定めた測定法によります。  
※定格、外観、仕様などは、改良のため、予告なしに変更することがあります。

■入力文字一覧表

操作 キー	英数入力		カナ入力	
	単独操作	(FUNC) +	単独操作	(FUNC) +
①	QZ1	qz1	アイウエオ	アイウエオ
②	ABC2	abc2	カキクケコ	
③	DEF3	def3	サシスセソ	
④	GHI4	ghi4	タチツテト	ッ
⑤	JKL5	jkl5	ナニヌネノ	
⑥	MNO6	mno6	ハヒフヘホ	
⑦	PRS7	prs7	マミムメモ	
⑧	TUV8	tuv8	ヤユヨ	ヤユヨ
⑨	WXY9	wxy9	ラリルレロ	
⑩	0	0	ワヲン	
○	SP., -	SP., -	° ° -	° ° -

※ (FUNC) + は、(FUNC) を押しながら  
操作キーを押すことを表します。

※ ○ の SP は、スペースの意味です。

※ (DIAL) 使用時は、上記以外に下記の  
記号も文字入力できます。

! " # \$ % & ' ( ) \* + / : ; < = > ?  
@ [ ¥ ] ^ \_ ` { | } . 「 」 、

■テレビ放送(音声)周波数一覧表

チャンネル番号	音声周波数	チャンネル番号	音声周波数	チャンネル番号	音声周波数
VHF 1CH	95.75 MHz	UHF 22CH	529.75 MHz	UHF 43CH	655.75 MHz
2CH	101.75 MHz	23CH	535.75 MHz	44CH	661.75 MHz
3CH	107.75 MHz	24CH	541.75 MHz	45CH	667.75 MHz
4CH	175.75 MHz	25CH	547.75 MHz	46CH	673.75 MHz
5CH	181.75 MHz	26CH	553.75 MHz	47CH	679.75 MHz
6CH	187.75 MHz	27CH	559.75 MHz	48CH	685.75 MHz
7CH	193.75 MHz	28CH	565.75 MHz	49CH	691.75 MHz
8CH	197.75 MHz	29CH	571.75 MHz	50CH	697.75 MHz
9CH	203.75 MHz	30CH	577.75 MHz	51CH	703.75 MHz
10CH	209.75 MHz	31CH	583.75 MHz	52CH	709.75 MHz
11CH	215.75 MHz	32CH	589.75 MHz	53CH	715.75 MHz
12CH	221.75 MHz	33CH	595.75 MHz	54CH	721.75 MHz
UHF 13CH	475.75 MHz	34CH	601.75 MHz	55CH	727.75 MHz
14CH	481.75 MHz	35CH	607.75 MHz	56CH	733.75 MHz
15CH	487.75 MHz	36CH	613.75 MHz	57CH	739.75 MHz
16CH	493.75 MHz	37CH	619.75 MHz	58CH	745.75 MHz
17CH	499.75 MHz	38CH	625.75 MHz	59CH	751.75 MHz
18CH	505.75 MHz	39CH	631.75 MHz	60CH	757.75 MHz
19CH	511.75 MHz	40CH	637.75 MHz	61CH	763.75 MHz
20CH	517.75 MHz	41CH	643.75 MHz	62CH	769.75 MHz
21CH	523.75 MHz	42CH	649.75 MHz		

高品質がテーマです。

## アイコム株式会社

本社	547 大阪市平野区加美東6丁目9-16	
北海道営業所	060 札幌市中央区大通東9丁目14	TEL (011) 251-3888
仙台営業所	984 仙台市若林区若林1丁目13-48	TEL (022) 285-7785
東京営業所	130 東京都墨田区緑1丁目22-14	TEL (03) 5600-0331
名古屋営業所	466 名古屋市昭和区長戸町2丁目16-3	TEL (052) 842-2288
金沢出張所	921 金沢市高島1丁目335	TEL (0762) 91-8881
大阪営業所	547 大阪市平野区加美南1丁目8-35	TEL (06) 793-0331
広島営業所	733 広島市西区観音本町2丁目10-25	TEL (082) 295-0331
四国営業所	760 高松市塩上町2丁目1-5	TEL (0878) 35-3723
九州営業所	815 福岡市南区塩原4丁目5-48	TEL (092) 541-0211

●サービスについてのお問い合わせは各営業所サービス係宛にお願いします。